

# 唐鈔李善單注本『文選』殘卷校勘記(一)

富 永 一 登

はじめに

李善の『文選』注には、約四万箇所に渡って千九百余種の書物(注釈書・詩文学作品を含めて)が引用されている。それは、『文選』正文の解釈、及び後世の文人の文学言語創作に際して極めて有用であつたのみならず、これらの中には、現在では目にするのができないもの、現行本と字句の異同があるものなどが少なくなく、唐代の流布本を研究する上でも、貴重な資料として活用されている。ところが、現行の板本『文選』李注には、後人によつて増補、或いは削除された形跡が見られ、板本李注の引書を全て李善が引用したものとは言えない可能性がある。その板本李善注の形成過程を知るための資料として貴重なのが、敦煌本と集注本の『文選』殘卷である。敦煌出土文選殘卷李善單注本(羅振玉輯『鳴沙石室古籍叢殘』所収)には二本あり、甲卷(敦煌写本ペリオ目録二五二八号)は、胡刻本卷二、張衡「西京賦」の十葉

「於浮柱」以降の後半部を残し、卷尾に、「永隆二年二月十九日弘濟寺寫」と記されている。永隆は高宗の年号で、六八〇年八月から六八一年九月までであり、この写本は永隆二年(六八一)のものである。顯慶三年(六五八)に李善が『文選』注を上表してから二十三年後、載初元年(六八九)李善の卒する(『舊唐書』儒学伝上)九年前にあたる。李善存命中の写本であり、『文選』李善注としては最古のものである。弘濟寺については、劉師培が「弘濟寺在唐長安、或此卷書自寺僧手也。」(『敦煌新出唐写本提要』一九一一年)と言ひ、伏俊連氏も「弘濟寺在長安、此卷或爲長安弘濟寺僧人所抄而帶到敦煌的。」(『敦煌賦校注』序)と言う。確かに唐・釈道宣『統高僧伝』(唐高僧伝)に、「隋京師弘濟寺釋智探」(卷二六)・「奉勅令任弘濟寺上座」(卷二二)「唐京師普光寺釋慧滿」と、その名が見え、また『唐兩京城坊考』(卷三)・「長安志」(卷八)にも、勝業坊の修慈尼寺がもと宏濟僧寺であつたことが記されている。

乙卷（ペリオ二五二七号）は、胡刻本卷四十五、東方朔「答客難」の四葉「不可勝數」から、楊雄「解嘲」の八葉「或釋褐而傳」までを残すが、巻尾に識語は無い。この乙巻について、蔣黻の題記（『鳴沙石室古籍叢殘』所収一九一〇年）では、甲巻に比べて乙巻は書体が逾美であり、「虎」（太祖の諱李虎）・「世」（太宗の諱李世民）・「治」（高宗の諱李治）字を欠筆しているのに、「且」字（睿宗の諱李旦）は欠筆していないので、高宗の時の内府本ではないかと言う。確かに兩者の筆跡は全く違い、同一人の筆ではない。また、伏俊連氏が「以字之避諱來斷定寫本之年代、宜有其他佐證。」（『敦煌賦校注』序）と指摘するように、欠筆だけで写本の時代を特定するのは危険であるが、李善が、

舊注是者、因而留之、並於篇首題其姓名。其有乖繆、臣乃具釋。並稱臣善以別之。他皆類此。（旧注のはなる者は、因りて之を留め、並びに篇首に於いて其の姓名を題す。其の乖繆有るは、臣乃ち具に釈す。並びに臣善と稱して以て之を別つ。他皆此に類す。——巻二の「薛綜注」の注）

と、その義例にいう「臣善曰」で始まる注釈の書式が同じことから考えて、李善注原本の体裁を保っていた甲巻と同時期に筆写されたものではないかと考えられる。

この両本が現行板本の誤りを訂正できる極めて貴重な資料であることは、蔣黻・劉師培以下の先人が皆例を挙

げて指摘する通りである。ただ、板本が唐鈔本に比べて李善注に増補された箇所が多いことに關する所謂李邕増補説については、意見の相違が見られる。

李邕増補説は、『新唐書』卷二〇二（文芸伝中）の李邕の伝記に、

邕少知名。始善注文選、釋事而忘意。書成以問邕。邕不敢對。善詰之、邕意欲有所更。善曰、試爲我補益之。邕附事見義、善以其不可奪、故兩書並行。（邕少くして名を知らる。始め善『文選』に注し、事を積して意を忘る。書成りて以て邕に問ふ。邕敢へて對へず。善之を詰ふに、邕の意更むる所有らんと欲す。善曰く、「試みに我が爲に之を補益せよ」と。邕事に附して義を見はし、善以へらく其れ奪ふべからずと。故に兩書並びに行はる。）

とあることに始まる。これに對して、『四庫全書總目提要』は、唐末の李匡乂の『資暇錄』（「非五臣」）の

世傳數本李氏文選。有初注成者、覆注者、有三注四注者。當時旋被傳寫之。其絕筆之本、皆釋音訓義、注解甚多。余家、幸而有焉。嘗將數本並校、不唯注之贍略有異、至於科段、互相不同、無似余家之本該備也。（世に數本の李氏『文選』を伝ふ。初めて注の成れる者、覆注なる者有り、三注四注なる者有り。當時旋に之を伝写するを被る。其の絶筆の本、皆音を釈し義を訓じ、注解甚だ多し。余が家、幸ひにし

て焉れ有り。嘗て数本を將て並びに校するに、唯だ注の賸略異なる有るのみならず、科段に至るも、互ひに相同じからず、余が家の本の該備なるに似たる無し。）

という説をもとに、唐末には、初注本から絶筆本に至る五種の李善注『文選』があり、最後の絶筆本が李善の定本であったとして、「是善之定本、本事義兼釈、不由於邕。……知新唐書喜采小説、未詳考也。」と、『新唐書』の説を否定する。

高歩瀛は、『四庫書目』従李涪翁（李匡乂）説、以今本事義兼釋者爲李善定本、其説甚是、足正『新傳』之誣。」と、この『四庫提要』の説を支持した上で、今本は李善晩年の定本に頭慶三年の上表文を冠したものである可能性を指摘している（『李注義疏』「唐李崇賢上文選注表」一九二九年）。つまり李邕ではなく李善自身が増補したということになるのである。岡村繁氏も同様の見解を述べている（『文選』李善注の編修過程——その緯書引用の仕方為例として——『東方学会四十周年記念『東方学論集』一九八七年）。

一方、蔣黻は題記に、

今此卷同今本相校、凡今本釋意之處、此皆從略。知此爲崇賢初次表上之本、而今本北海補益之本也。

（今此の巻と今本と相校するに、凡そ今本釈意の處、此れ皆略に従ふ。此れ崇賢（李善）の初次表上の本

たりて、今本は北海（李邕）補益の本なるを知る。）

と記し、『新唐書』の記述に基づいて板本の釈意の部分は李邕の増補だとする。また、劉師培、伏俊連氏も、それぞれ「或李邕所増、或亦他注所竄入。」（劉氏「敦煌新出唐写本提要」）、「李邕少年天才、讀『文選』重意輕事、爲乃父補益、不是不可能。……江淮間爲選學故鄉、曹憲弟子除李善外、公孫羅・魏模皆『選』注、唐人去古未遠、家法之學尚存、同爲一家者流、可同歸一家代表之名下。所以後人讀公孫・魏之注、歸輯李善注之中、也是有可能的。」（伏氏「敦煌賦校注」序）と言い、蔣黻ほど断定的ではないが、李邕補足の可能性を肯定する。

果たして、『新唐書』が記述するように増補部分には引書ではなく釈義の注が多いのか。どのような増補がなされているのか。このことを確認するため、以下、先人の校勘の不備を遺漏と誤謬を補足しつつ、唐鈔本と板本の対校を行って、李善注の増補問題とその形成過程を検討する一助にしたいと思う。

なお、校勘に使用したテキスト・参考文献は、次のとおりである。（「」内は略称）

〈テキスト〉

○敦煌出土文選殘卷李善單注本（羅振玉輯「鳴沙石室古籍叢殘」所収）「唐写本」

○宋・尤袤刊本（北京中華書局景印本）「尤本」

○清・胡克家重雕宋淳熙本（北京中華書局景印本）「胡

刻本」

- 宋・明州刊本（足利学校遺跡図書館藏 汲古書院景印本）〔明州本〕
- 明・袁褰仿宋刊本（広島大学文学部中国文学研究室蔵本）〔袁本〕
- 韓国奎章閣所蔵本（広島大学文学部中国文学研究室蔵写真版）〔朝鮮本〕
- 涵芬樓藏宋刊本（四部叢刊初編所収）〔四部本〕
- 宋刻單行五臣注本（建陽崇化書坊陳八郎宅善本 國立中央図書館藏南宋紹興三十一年刊本影印）〔崇本〕
- 古鈔本文選殘卷（京都東方文化研究所用九条家蔵正応二年写本景照）〔九条本〕
- 文選殘一卷（京都東方文化研究所用大阪上野精一氏蔵鈔本景照）〔上野本〕
- 「北宋本殘卷」\*北宋本『文選』殘卷は未見なので、参考文献に挙げた黄志祥氏の「北宋本文選殘卷校証」の記載によった。
- 〈参考文献〉
- 高歩瀛『文選李注義疏』（一九二九年刊 選学叢書所収）〔高氏義疏〕
- 饒宗頤「敦煌本文選輯証」（一）（二）（『新亞學報』3-1、2 一九五七年。木鐸出版社『昭明文選論文集』収録）〔饒氏輯証〕
- 伏俊連『敦煌賦校注』（甘肅省人民出版社 一九九四

年）〔伏氏校注〕

- 黄志祥「北宋本文選殘卷校証」（國立高雄師範學院國文研究所碩士論文 一九八三年）〔黄氏北宋本殘卷校証〕
  - \*伏俊連「敦煌唐写本〈西京賦〉殘卷校註」（『文獻』一九九五年第一期）にも三十一條の校記がある。
  - \*蔣勳の題記に「余別有校勘記詳之。」というが、蔣氏の校勘記は未見。
  - \*乙卷の方は、斯波六郎『文選諸本の研究』（一九五七年）に、數條の校記がある。
  - 清・張雲璈『選学膠言』（選学叢書所収）〔張氏膠言〕
  - 清・胡紹煥『文選箋証』（選学叢書所収）〔胡氏箋証〕
  - 清・梁章鉅『文選旁証』（選学叢書所収）〔梁氏旁証〕
  - 清・許巽行『文選筆記』（選学叢書所収）〔許氏筆記〕
  - 清・孫志祖『文選考異』（選学叢書所収）〔孫氏考異〕
- 《凡例》
- 先に唐写本の正文を挙げ、板本と異同のある場合は、（〜）内に胡刻本の正文を記し、後に異同のある字句を【】で示して校記を付した。
  - （正文）の前の数字は、胡刻本の葉數と表（a）・裏（b）である。
  - 李善注は、上段（唐写本）と下段（胡刻本）を対照させ、注釈の増減を判別しやすくした。

○兩者に異なるのある箇所については、胡刻本李善注の右側に「」を付し、異なるのある字句を「」で示して校記を記した。

○校記の中で、異なるのある字句は、へで示した。

○単なる字体の違いと判断したものについては、特に注記しなかった。

○唐写本の字体は極力尊重して翻刻したが、筆写体特有の字体については改めた。

○李善注に引く文献・作品の校勘対象は、『文選李善注引書攷證』（研文出版）の引書一覧表、及び『文選李善注引書索引』（研文出版）に記してあるので、ここでは省略した。

《甲卷》（卷二 張衡「西京賦」）

\* 李善注の前にあるのは、李善が旧注として引く薛綜の注である。

10 a

（正文）：殘缺…：幹疊而百增。（神明崛其特起、井幹疊而百增）

【幹疊】二字唐寫本餘左半。

【幹】崇本此字下有へ音寒へ音注、袁本明州本朝鮮本四部本作へ寒へ無音へ字。此五臣注之體例耳。唐寫本正文中無有音注。張氏膠言李注例說云、「音釋多在注末、而不在正文下。凡音之在正文下者、皆非李氏舊也。」下不再出

校。

【増】饒氏斟證云、「漢郊祀志顏注引作へ層」。顏注又云へ幹へ或作へ幹へ、其義竝同。」

（注）

臣善曰、漢書…殘缺…又曰、武帝作井…殘缺…

【崛高貌】唐寫本無此三字。

【善曰】唐寫本へ善へ上有へ臣へ字、下皆同。此與善注義例合。

【廣雅曰增重也】唐寫本無此六字。

【神明井幹已見西都賦】四部本作へ漢書曰孝武立神明臺又曰武帝作井幹樓高五十丈輦道相屬焉司馬彪莊子注曰井幹井欄也然積木有若欄也。此見卷一西都賦へ神明鬱其特起へ注、へ攀井幹而未半へ注。凡各本作へ已見へ者、四部本皆重出引文、此四部本之體例耳。唐寫本作井以下缺字、應是へ幹樓高五十丈へ六字、へ輦道相屬焉司馬彪莊子注曰井幹井欄也然積木有若欄也へ二十四字、唐寫本所無也。

（正文）…殘缺…於浮柱、結重欒以相承、へ詩遊極於浮柱、結重欒以相承へ

【詩】九条本上野本袁本明州本朝鮮本四部本崇本並作へ詩へ

【遊】上野本作へ遊へ、傍記云、「五臣作へ遊へ。」

崛、高貌。

善曰、廣雅曰、増、重也。

神明、井幹、已見西都賦。

（注）

躡、猶置也。三輔：殘缺：置浮柱之上。欒、柱上曲：殘缺：者。

作遊梁、置浮柱上。欒、柱上曲木、兩頭受櫨者。廣雅曰、曲枿曰欒。釋名曰、欒、躡上曲拳也。

【詩】朝鮮本作《詩》。

【柱上】唐寫本柱下有《之》字。

【廣雅】曲枿曰欒釋名曰 欒躡上曲拳也 四部本《廣雅》上有《善》曰《之》二字。胡氏考異云、「案《廣》上當有《善》曰《之》二字。茶陵本此作善注、最是。袁本與此同、皆非。」梁氏旁證云、「段校、《廣》字上添《善》曰《之》二字。」高氏義疏云、「梁章鉅曰、段校添。今從之。然唐永隆寫本、自《廣雅》下皆無之。」伏氏校注<sup>3</sup>、以四部本為是云、「唐寫本雖是《李注》未經紊亂之者、然非李氏最後定本、明矣。」今案袁本明州本朝鮮本無《善》曰《之》二字。此十六字、疑非善注、四部本以後人所增為善注、冠《善》曰《之》二字。

【正文】累層構而遂躡、望北辰而高興、《累層構而遂躡、望北辰而高興》

【躡】唐寫本作《躡》。上野本傍記云、《躡》或本。

【構】崇本袁本明州本作《構》。

躡、升。北辰、極也。

躡、升也。子奚切。北辰、北極也。

善曰、山海經曰、層、重也。

【子奚切】唐寫本無此三字。

【北極】唐寫本無《北》字。

【善曰】山海經曰層重也 唐寫本無此九字。胡氏考異云、「陳云、《經》下脫《注》字。是也。各本皆脫。」見海外西經乘兩龍雲蓋三層郭璞注。伏氏校注6云、「此《山海經》以下七字、疑為後儒竄入者。」四部本無《善》曰《之》二字、躡上無《綜》曰《之》二字、《躡升也》以下皆誤為李善注。

集重陽之清激

【埃於】二字唐寫本餘左半。

【激】九条本崇本袁本朝鮮本作《澄》、上野本作《激》。

（注）

霏埃、塵穢也。宸、天地之交界也。言神明臺高、既除去下地之垢穢、乃上止於天陽之宇、清激之中也。上為陽、清又為陽、故曰重陽。

消、散也。霏埃、塵穢也。宸、天地之交界也。言神明臺高、既除去下地之埃穢、乃上止於天陽之宇、清激之中。上為清陽又為陽、故曰重陽。

臣善曰、楚辭曰、集重陽而入帝宮兮、造旬始而覲清都。

宸音宸。

善曰、楚辭曰、集重陽而入帝宮兮、造旬始而覲清都。 霏音氛。宸音宸。

【消散也】唐寫本無此三字。

【埃穢】唐寫本作「埃穢」。伏氏校注8云、「當以「埃穢」爲是。」「埃穢」爲中古成語，如「爾雅」釋言「埃穢也疏」，樊光云、「獨除「埃穢」，使令清明。」隋書「楊伯醜傳、形體「埃穢」、未嘗「埃沐」。

【激】朝鮮本作「激」。

【清激之中】唐寫本袁本明州本朝鮮本四部本九条本眉批引「中」下有「也」字。伏氏校注9云、「唐人引書、往往句末加「也」字、即詩歌亦有如是者、亦有抄手所加者、有無、無甚要緊也。」

【清陽】袁本明州本朝鮮本四部本九条本眉批引作「陽清」。

胡氏考異云、「袁本茶陵本「清陽」作「陽清」、是也。」尤本胡刻本誤倒耳。

【故曰】北宋本殘卷袁本明州本朝鮮本四部本脱「曰」字。

【陽而】唐寫本無而字。今「楚辭」遠遊亦無「而」字。各本衍耳。

【霽音氛】唐寫本無此三字。

【辰】唐寫本下誤作「宸」。當據各本作「辰」。

【正文】歐宛虹之長鬢、察雲師之…殘缺…、(歐宛虹之

長鬢、察雲師之所憑)

【宛】唐寫本上野本作「宛」。饒氏斟證云、「案「宛」爲「宛」俗字、「說文」兔部「宛、屈也、兔在門下不得走、益屈折也」。又兩部「寬、屈虹」。此宛虹爲屈折之虹也。又揚雄解嘲「談者宛舌」、師古曰「宛、屈也」。故宛與

宛通。」伏氏校注15云、「「宛」與「宛」通作、「楚辭」中甚多、如九章「情宛見之日明兮」、考異「宛、一作宛」。

【鬢】唐寫本作「鬢」、爲「鬢」俗字。「干祿字書」「鬢」爲「鬢」俗字。

(注)

鬢、脊…殘缺…。

…殘缺…鬢、渠祗反。

鬢、脊也。雲師、畢星也。臺高悉得視之。

善曰、鬢、渠祗切。廣雅曰、

歐、視也。如淳漢書注曰、宛虹也。小雅曰、憑、依也。

廣雅曰、雲師謂之豐隆。

【切】反切、唐寫本作「反」、各本皆作「切」、下同。不再出校。

【廣雅曰歐視也如淳漢書注曰宛虹也小雅曰憑依也廣雅曰雲師謂之豐隆】唐寫本無此三十字。高氏義疏云、「本書上林賦注引如淳曰、「宛虹、屈曲之虹也」。『漢書』司馬相如傳顏注同。當即本如淳。此注蓋誤脫、今據上林賦注補。」

【正文】上飛闔而仰眺、正睹瑤光與玉繩。(上飛闔而仰

眺、正睹瑤光與玉繩)

【睹】九条本上野本崇本袁本明州本朝鮮本四部本作「覩」。

【玉】唐寫本作「王」。饒氏斟證云、「「玉」字古寫無旁點。」

(注)

…殘缺…木也。

臣善曰、春秋運斗樞曰、北斗七星、第七曰搖光。春秋元命苞曰、玉衡北兩星爲玉繩。

飛闥、突出方木也。

善曰、春秋運斗樞曰、北斗七星、第七曰搖光。春秋元命苞曰、玉衡北兩星爲玉繩。

【第七】尤本袁本朝鮮本（七）作（十）。

【瑤光】唐寫本（瑤）作（搖）。高氏義疏云、「『禮記』曲禮上正義·『史記』天官書索隱·『藝文類聚』·『太平御覽』天部引『運斗樞』皆作（搖）、正合。」饒氏斟證云、「文選刻本涉正文而作（瑤）耳。」九条本眉批引李善注作（瑤）。

10 b

（正文）將乍往而未半、忱悼慄而慄兢。（將乍往而未半、

忱悼慄而慄兢）

【慄】九条本崇本袁本明州本朝鮮本四部本作（聳）、注同。高氏義疏云、「『說文』曰、慄、驚也。（聳）、借字。」伏氏校注17云、「二字義異、今本善注作（慄）、即其證。然二字皆形聲同聲字、作假借講亦可。」

（注）

言恐墮也。

臣善曰、方言曰、慄、悚也。先拱反。

忱、恐也。悼、傷也。慄、憂戚也。言恐墮也。

善曰、廣雅曰、乍、暫也。方言曰、慄、慄也。先拱切。

忱音黜。慄音栗。

【忱恐也悼傷也慄憂戚也】唐寫本無此十字。〈慄〉字、袁本明州本四部本誤作（悚）、朝鮮本正作（慄）。

【廣雅曰乍暫也】唐寫本無此六字。

【慄也】唐寫本（慄）作（悚）。高氏義疏云、「『方言』十三、（聳、悚也）。六臣本與上薛注（慄）字互誤。尤本上（慄）字不誤、而此（悚）字作（慄）字誤。今正。」

【忱音黜慄音栗】唐寫本無此六字。袁本明州本朝鮮本四部本不在注末、各在正文下。此六字非李善原注、後人從五臣音注增添耳。

（正文）非都盧之輕趨、孰能超而究升。

（注）

臣善曰、漢書曰、自合浦南有都盧國。太康地志曰、都盧國、其人善緣高。說文曰、趨、善緣木之士也。綺驕反。

（正文）駁娑駘盪、燾募桔桀、杓詣承光、睽風摩蹻。（駁

娑駘盪、燾募桔桀、杓詣承光、睽風摩蹻）

【蹻】九条本崇本袁本明州本朝鮮本四部本作（豁）、注同。

（注）

駁娑、駘盪、杓詣、承光、皆臺名。燾募桔桀、睽風、皆臺名。燾募桔桀、睽風、



摩儲、皆形貌也。

摩儲、皆形兒。

臣善曰、燾、徒到反。昇、五到反。桔、音吉。榮反。睽、呼圭反。鼠、許孤反。庠、呼交反。

善曰、燾、徒到切。昇、五告切。桔、音吉。睽、呼圭切。鼠、計狐切。庠、呼交切。

【駁安胎盪杓詣承光皆臺名】四部本脱此十一字。

【兒】諸本作「兒」貌、唯胡刻本作「兒」耳。『干祿字書』云、「兒」下不再出校。唐寫本

「兒」下不再出校。唐寫本

【五告】唐寫本「告」作「到」。伏氏校注22云、「昇、廣韻」

「五到切」、與唐寫本同。

【音吉】唐寫本吉下有「榮反」二字。伏氏校注23云、「唐寫本「榮反」二字疑爲衍文、今本無此二字。」

【計狐】唐寫本「狐」作「孤」。九条本「鼠」字傍記云、「善計狐反。」

【燾徒到切昇五告切桔音吉睽呼圭切庠呼交切】袁本明州本朝鮮本四部本無此十九字、音注皆在各正文下、此乃五臣亂李善注者。

【正文】增桴重禁、鏐、列之。《增桴重禁、鏐鏐列列》

【檜】唐寫本作「增」。胡氏考異云、「袁本茶陵本「檜」作「增」、案此尤誤。」胡氏箋證云、「按「檜」亦重也。五臣本作「增」。《檜》《增》《古通》。『禮記』禮運《冬則居檜巢》釋文《檜、本又作增》。」

(注)

臣善曰、鏐、列之、高兒。善曰、鏐鏐、列列、皆高貌。

【皆高】唐寫本無皆字。伏氏校注25云、「今本是、鏐鏐」列列各自爲詞。」

【正文】反字業、飛檐。《反字業業、飛檐》

【反】崇本袁本明州本朝鮮本作「及」、校記云、「善本作「反」。九条本傍記云、「及」五。」四部本校語亦云、「五臣作「及」。伏氏校注26云、「作「及」、乃形近誤字。」

【業業】上野本作「業業」。

(注)

凡屋宇皆垂下向、而好大屋。凡屋宇皆垂下向、而好大屋。飛邊頭瓦皆更微使反上、其形業業然。檐、板承落也。

蠟、高兒。善曰、西都賦曰、上反字以蓋戴。蠟、魚桀切。

【飛】唐寫本作「扉」。高氏義疏云、「唐寫薛注「飛」作「扉」、疑誤。」伏氏校注27云、「唐寫不誤、今本誤矣。《屋扉》連續、謂屋舍、如作「飛」、則不詞。《扉》之草体似「飛」(見唐裴休草書)、故誤爲「飛」。」

【高兒】「兒」字、諸本作「兒」貌、唯胡刻本作「兒」耳。唐寫本「兒」下有「也」字。

【旗魚榮切】袁本明州本朝鮮本四部本無此四字、轅字下有魚榮音注。此亦五臣亂善注。

（正文）流景內照、引曜日月。

（注）

言皆朱畫華采、流引日月之光、曜於宇內也。言皆朱畫華采、流引日月之光、曜於宇內。

【字內】唐寫本內下有也字。

（正文）天梁之宮、寔開高闕。

（注）

天梁、宮名。宮中之門謂之闕。此言特高大也。天梁、宮名。宮中之門謂之闕。此言特高大。

【高大】唐寫本大下有也字。

11 a

（正文）旗不脫肩、結駟方斬、

（注）

熊虎爲旗。肩、關也。謂建旗車上、有關制之、令不動。爾雅曰、熊虎爲旗。肩、關也。謂建旗車上、有關制之、令不動。搖曰肩。每門解下之。今此令不動。今此門高、不復脫肩、結駟馬、方行而入也。斬、馬銜也。駟馬、方行而入也。斬、馬銜也。

臣善曰、左氏傳曰、楚人蒞善曰、左氏傳曰、楚人蒞之。

之脫肩。古榮反。楚辭曰、青驪結駟齊千乘。斬、巨衣反。楚辭曰、青驪結駟齊千乘。

【爾雅曰】唐寫本無此三字。高氏義疏云、「薛注各本」

熊虎」上爾雅曰「三字、唐寫無。今據刪。熊虎爲旗、

乃『周禮』春官司常之文。」伏氏校注30云、「善注所引

薛綜舊注、皆直接訓釋、無有引據經典者。此亦可證爾

雅曰「三字不當有、唐寫本是矣。」

【銜】唐寫本袁本明州本朝鮮本四部本作銜。

【肩古榮切】袁本明州本朝鮮本四部本無此四字。伏氏校

注31云、「六臣本正文肩後有音注古榮二字、乃刪削

注文肩古榮反四字、則注文引『左傳』不成句矣。」但

伏氏以爲唐寫本肩字重疊、今仔細看、唐寫本肩字不

重疊。高氏義疏云、「古榮切上應再出肩。」

【斬巨衣切】高氏義疏云、「唐寫斬巨衣反四字、在

千乘後、是。」饒氏斟證云、「蓋順序爲注、各刻本誤倒

在楚辭上。」伏氏校注32云、「李注先釋義、後釋音。引

『楚辭』乃解釋正文結駟方斬意、故唐寫本是。」

【關】饒氏斟證云、「永隆本關字多誤作開。」案『

千祿字書』以關爲關之俗字、唐寫本不誤。今以關

字寫、不再出校。

（正文）櫜輻輕鷲、容於一扉。櫜輻輕鷲、容於一扉

【櫜】唐寫本作櫜。胡氏考異云、「袁本茶陵本櫜作

字寫、不再出校。

〔轅〕。案此尤誤、注作〔轅〕、未改也。」

(注)

馭車欲馬疾、以箠撻於輻、馭車欲馬疾、以箠撻於輻、使有聲也。

使有聲也。

〔馭車欲馬疾以箠撻於輻使有聲也〕袁本明州本朝鮮本四部本以此文爲李善注、又九条本眉批冠〔善曰〕二字引此注無馭字。高氏義疏云、「案此注各本無〔善曰〕字。當是薛注。惟六臣本在善注下、恐誤。」伏氏校注34云、「李善訓釋字詞、皆引經史傳爲據、如陳述已見、則冠以〔然〕字置於文末。六臣本不合李注體例、非是。」

(正文) 長廊廣廡、連〔改途爲連〕閣雲曼。(長廊廣廡、

途閣雲曼)

〔連閣〕(連)字、唐寫本先作(途)、後改(連)。尤本胡刻本作(途)。袁本明州本朝鮮本四部本校語云、「善本作(途)、及九条本傍記云、「(途)善」。孫氏考異云、「顏師古『匡謬正俗』引此賦亦作『連閣雲曼』。」胡氏箋證云、「作(連)是也。(連閣)與上(長廊廣廡)下(重闈幽闈)一例、作(途)、與(閣)義不相屬。高氏義疏云、「作(途)者、乃轉寫之誤耳。」上野本作(延)、傍記云、「李作(途)閣、(連閣)五臣。」

〔蔓〕唐寫本上野本作(曼)、唐寫本注文亦同。伏氏校注35云、「(蔓)從曼得聲、聲同而義通、訓詁通例也。然細究之、從草之蔓常形容草木類。而(曼)則用途更廣泛、故

唐寫本作(曼)是。」

(注)

謂閣道如雲氣相延曼也。

臣善曰、許慎淮南子注曰、廊、屋也。說文曰、廡、堂

下周屋也。無禹反。

謂閣道如雲氣相延曼也。

善曰、許慎淮南子注曰、廊、屋也。說文曰、廡、堂下周屋也。無字切。

下周屋也。無禹反。

無字切。

〔無禹反〕(宇)字、唐寫本作(禹)。袁本明州本朝鮮本四部本無此三字而正文(廡)下有(無字切)三字、四部本無(切)字。崇本無此音注、疑五臣注原本無此、後據李善音注而記之。

(正文) 閉庭詭異、門千戶萬。(閉庭詭異、門千戶萬)

〔萬〕唐寫本上野本作(萬)、唐寫本注文同。伏氏校注37云、「按(萬)爲(萬)之俗體。『玉篇』方部(萬、俗萬字)。」

〔千祿字書〕云、「(萬)爲(萬)、竝正。」寫本中(萬)字多

作(方)、下不再出校。

〔閣〕下、板本有音注(汗)字、崇本作(音汗)。此乃五臣

本之體例耳。】

(注)

臣善曰、蒼頡篇曰、閉、恒

也。胡旦反。西都賦曰、張

千門而立萬戶。

善曰、蒼頡篇曰、閉、垣也。胡旦切。說文曰、詭、違也。西都賦曰、張千門而立萬戶。

〔垣〕唐寫本作(恒)、當作(垣)。

【說文曰詭違也】唐寫本無此六字。今『說文』作「詭變也從心危聲」。卷十二木華「海賦」〈瑕石詭暉〉注引作「詭變也」。卷五十三陸機「辯亡論」上〈古今詭趣〉注引亦作「詭變也」。下云、「詭與恠同」。胡氏考異云、「案「詭」當作「恠」。此所引心部文。」梁氏旁證云、「今說文「詭責也」。朱氏珣曰、「詭違也」之訓、見『淮南』主術篇、而『漢書』顏注屢用之、非『說文』語。此處與「海賦」注兩岐、則必有誤。」饒氏斟證云、「當是後人混增。」

【正文】重閨幽闈、轉相踰延、（重閨幽闈、轉相踰延）

【踰】九条本崇本袁本明州本朝鮮本四部本作逾。

（注）宮中之門、小者曰闈。言互 移賤切。宮中之門、小者曰相周通也。

【移賤切】唐寫本無此三字。袁本明州本朝鮮本四部本薛綜注無此注、而正文「延」下有「移賤」音注。高氏義疏云、「此蓋五臣本注羈入者、六臣本此但作「移賤」二字、與「延」字下「他頂」二字同、可證也。今依唐寫刪。」饒氏斟證云、「胡刻混他本音切、誤與薛注相連。」

【言互相周通也】四部本脫「言」字。各本皆無「也」字。

（正文）望叫窳以徑廷、眇不知其所返。〈望叫窳以徑廷、眇不知其所返〉

【窳】唐寫本上野本袁本明州本朝鮮本作「叫」。四部本校語云、「五臣本作「叫」字。」九条本傍記云、「「叫」五。」

袁本明州本朝鮮本校語云、「善本作「窳」。胡氏箋證云、「按「窳」字、字書所無、壞字也。當本作「叫」。魯靈光殿賦「洞房叫窳」注引此、正作「叫」。蓋「窳」字假借、後人加「穴」而為「窳」、而『集韻』收之、誤矣。」胡說是也。李善本原作「叫」、後人改作「窳」、今據唐寫本當正。

【徑】唐寫本作「徑」、注同、上野本亦作「徑」。『爾雅』釋水「直波為徑」釋文云、「「徑」、古定反、字或作「徑」。十三經注疏本作「徑」、阮元『校勘記』云、「「徑」徑同。」

（注）叫窳、徑廷、過度之意。言 詞窳、徑廷、過度之意也。入其中、皆迷惑不識還道也。言入其中、皆迷惑不識還道也。

臣善曰、窳、他弔反。廷、善曰、窳、他弔切。廷、他定反。方万反。

【窳】唐寫本作「叫」。

【意也】唐寫本無「也」字。

【返】唐寫本「方」上脫「返」字。

【窳他弔切返方萬切】袁本明州本朝鮮本四部本無此八字、正文「返」字下有「方萬反」三字。但袁本「反」作「切」。

（正文）既乃珍臺蹇產以極壯、燈道邇倚以正東。〈既乃珍臺蹇產以極壯、燈道邇倚以正東〉

【燈】九条本崇本袁本明州本朝鮮本作「燈」。四部本校語云、「五臣本作「燈」。九条本傍記云、「「燈」善。」許氏

筆記云、「西都賦作『墜』。此『墜』字字書所無、當作『墜』。然唐寫本上野本作『墜』、又袁本明州本薛綜注作『墜』、恐是李善注原本作『墜』。

【選】唐寫本上野本作『麗』。伏氏校注45云、「『麗倚』乃連綿字、或作『選倚』、『選迤』、其義皆一也。」

(注) 蹇産、形兒也。墜、閑道也。麗倚、一高一下、一屋一直也。乃從城西建章館而踰西城、東入於正宮中也。

臣善曰、甘泉賦曰、珍臺閑館。西都賦曰、凌墜道而超西墉。麗、力氏反。倚、其綺反。

蹇産、形貌也。墜、閑道也。選倚、一高一下、一屈一直也。乃從建章館踰西城、東入於正宮中也。善曰、甘泉賦曰、珍臺閑館。西都賦曰、凌墜道而超西墉。都互切。選、力氏切。倚、其綺切。

【墜閑道也】『墜』字、朝鮮本作『墜』。

【選倚】『選』字、唐寫本袁本作『麗』。

【一屈】唐寫本『屈』作『屋』。饒氏斟證云、「永隆本『屋』乃『屈』之譌。」伏氏校注46云、「原卷『屋』字當爲『屈』字之訛。」

【乃從建章館】唐寫本『從』下有『城西』二字、『館』下有『而』字。

【閑館】『閑』字、唐寫本四部本作『閒』。

【凌墜】『墜』字、朝鮮本作『墜』、與唐寫本同。案卷一「

西都賦」作『墜』、此當作『墜』、板本涉正文而誤、唯朝鮮本不誤。

【超西墉】『超』字、四部本誤作『起』。

【墜都且切】唐寫本無此四字。朝鮮本『墜』作『墜』、袁本『都』上有『音』字。案卷一「西都賦」『凌墜道而超西墉』李善注云、「薛綜西京賦注曰、墜、閑道也。丁鄧切。」音注與此異。

【選力氏切】『選』字、唐寫本袁本作『麗』。

【倚其綺切】袁本明州本朝鮮本四部本無此四字、而正文『倚』字下有音注『其綺』二字。崇本無此音注、疑五臣注原本無此、後據李善音注而記之。

11 b (正文) 似閩風之遐坂、橫西洫而絕金墉。

(注)

閩風、崑崙山名也。墉墉謂城也。絕、度也。言閑道似此山之長崖、橫越西池而渡金城也。西方稱之曰金。閩風、崑崙山名也。洫、城池也。墉謂城也。絕、度也。言閑道似此山之長遠、橫越西池而度金城也。西方稱之曰金。

臣善曰、東方朔十州記曰、崑崙其北角曰閩風之巔。洫、已見上文。善曰、東方朔十洲記崑崙其北角曰閩風之巔。洫、已見上文。

【洫城池也】唐寫本無此四字。饒氏斟證云、「因已見本

篇上文（經城洫）句下薛注、有者殆非善留薛注原貌。」

【墉謂城也】唐寫本「墉」下有「牆」字。高氏義疏云、「唐寫薛注「墉」下有「牆」字。」伏氏校注50云、「今仔細看、不作「牆」、實作「墉」。」然今此字似「墉」字、饒氏對證亦以為「墉」字、「墉」與「牆」通、高氏是也。

【長遠】「遠」字、唐寫本作「崖」。饒氏對證云、「案賦云「遐坂」、則注作「長崖」正相應。」伏氏校注51云、「按、作「崖」為是、「長崖」釋正文「遐坂」、于義為切、若「長遠」則不切矣。」

【度金城】「度」字、唐寫本作「渡」。伏氏校注52云、「按、「渡」與「度」為同聲通假字、例不勝舉。」

【十洲記】「洲」字、唐寫本作「州」、「記」下有「曰」字、各本脫耳。

【洫已見上文】四部本作「周禮曰廣八尺深八尺謂之洫」。此與上文「經城洫」注所引同。重出引文者、四部本之體例耳。饒氏對證云、「疑茶陵陳氏所謂增補六臣即屬於此類。」

【正文】城尉不弛柝、而內外潛通。

【弛】九条本袁本明州本朝鮮本四部本作「弛」。

弛、癢也。潛、嘿也。言城門校尉不癢擊柝之備、內外已自嘿通也。言城門校尉不癢擊柝之備、內外已自嘿通也。善曰、弛、詩紙反。柝、音託。

柝與櫜同音。

【弛】朝鮮本明州本四部本作「弛」。

【嘿】朝鮮本作「默」、下同。

【擊柝】「柝」字、朝鮮本作「折」、尤本作「拆」。

【弛詩紙切】唐寫本此下有「柝音託」三字。疑各本從下補「鄭玄周禮注文刪此三字。又袁本明州本朝鮮本四部本無「弛詩紙切」四字、而正文「弛」字下有音注「詩紙」二字。崇本無此音注、疑五臣注原本無此、後據李善音注而記之。

【鄭玄周禮注曰櫜戒夜者所擊也柝與櫜同音】唐寫本無此十八字。尤本「柝」作「拆」。案今『周禮』天官宮正「夕擊柝而比之」鄭玄注云、「鄭司農云、柝戒守者所擊也。」正文注釋文並不作「櫜」字。疑後人據『周禮』異本增補此注。

（正文）前開唐中、弥望廣濶。（前開唐中、彌望廣濶）

【唐】崇本袁本明州本朝鮮本作「堂」、校語云、「善本作「唐」。」四部本校語云、「五臣作「堂」。」九条本傍記亦云、「堂」五。伏氏校注56云、「按、「唐中」為西漢宮苑名、『史記』孝武紀、『漢書』武帝紀皆作「唐中」、『文選』西都賦亦作「唐中」、故「唐中」是。當然、「唐」與「堂」同音字、古可通用。」

【彌】唐寫本上野本作「弥」、唐寫本注文亦同。伏氏校注56云、「弥」為「彌」的俗體字。敦煌遺書中「彌」多寫作「弥」。下不再出校。

【濼】崇本袁本明州本朝鮮本作〈象〉、校語云、「李善〈象〉作〈濼〉。」四部本校語云、「五臣作〈象〉。」九条本傍記亦云、「〈象〉五。」伏氏校注56云、「按、〈廣濼〉爲連字、〈象〉〈濼〉同音通假。」

(注)

弥、遠也。

臣善曰、漢書曰、建章宮、

其西則唐中數十里。又曰、

五侯大治第室、連屬弥。字

林曰、激水濼也。大朗反。

彌、遠也。

善曰、唐中、已見西都賦。

漢書曰、五侯大治第室、連

屬彌望。彌、竟也。言望之

極目。字林曰、濼、水濼瀼

也。大朗切。

【唐中已見西都賦】唐寫本作〈漢書曰建章宮其西則唐中數十里〉十四字。四部本作〈漢書曰建章宮其西則有唐中數十里如淳曰唐庭也〉二十一字、此從卷一「西都賦」〈前唐中而後大濼〉注摘錄、重引出引文者、四部本之體例耳。

【漢書曰】唐寫本作〈又曰〉。饒氏斟證云、「〈又曰〉二字

跟上文〈漢書曰〉來、胡刻已省去漢書建章宮一節、故〈又

曰〉二字改作〈漢書曰〉三字。叢刊本已增補上節、而此節

復作〈漢書曰〉、非善注之例、蓋增補時失檢。」

【第室】〈第〉字、尤本誤作〈弟〉。

【彌望】〈望〉字、唐寫本脫。〈望〉字下、北宋本殘卷袁本

明州本朝鮮本衍〈唐中已見西都賦〉七字。黃氏北宋本殘卷

校證云、「已在〈善曰〉二字下、本注末不當復出。」

【彌竟也言望之極目】唐寫本北宋本殘卷袁本明州本朝鮮本四部本無此八字。胡氏考異云、「袁本茶陵本無此八字。案無者是也。袁本復衍〈唐中已見西都賦〉七字、亦非。」案此八字與『漢書』元后傳〈連屬彌望〉顏師古注文同。黃氏北宋本殘卷校證云、「恐後人旁記而尤刻誤入注中。」

【濼水濼瀼也】唐寫本作〈激水濼也〉。北宋本殘卷袁本明州本朝鮮本四部本〈濼瀼〉作〈濼濼〉。胡氏考異云、「袁本茶陵本〈濼〉作〈濼〉、是也。」高氏義疏云、「胡氏說殆非是。『說文』曰、〈濼水濼瀼也〉。段氏注曰、〈濼者、古文爲濼水字、隸爲濼瀼字。是亦古今字也。濼瀼疊韻字〉。據此知『字林』之訓、卽本『說文』。唐寫〈濼瀼〉二字作〈像〉字、亦誤。」伏氏校注59云、「今按、唐寫本作〈濼濼〉、不作〈像〉、用重文符號、與六臣本同。高氏未看清。」然今唐寫本不作〈濼濼〉、伏氏亦未看清。饒氏斟證云、「此永隆本引文、下四字有誤。胡刻作〈濼水濼瀼也〉、與『說文』合。案『廣雅』釋訓〈濼濼流也〉、是作〈水濼濼〉者義亦可通、但異于所引『字林』原文矣。」黃氏北宋本殘卷校證云、「敦煌本作〈激水濼也〉。〈激〉乃〈濼〉之誤文、〈濼濼〉古人寫作〈濼〉、敦煌本失去、而止作〈濼〉、知敦煌本亦作〈水濼濼也〉、與此宋本同誤。」伏氏校注

59云、「我同意『考異』的看法。理由有二。〈濼〉有二義、一爲水流搖動貌。『說文』〈濼、水濼濼也〉。一是水廣大之貌。『廣韻』〈濼、水大之貌〉。我以為『廣韻』卽本『字林』(原誤作『字体』、下同)、『字林』當作〈濼、水濼

濼也。此其一。其二、善注引用字書訓詁（原作故）、同一訓釋引時代最早者、此爲善注通例。如『字林』釋濼同『說文』完全相同、李善斷不會舍『說文』而引『字林』。

（正文）顧臨太液、滄池滌沔。

【沔】上野本誤作沔。

（注）

滌沔、猶洗濼、亦寬大也。

臣善曰、漢書曰、建章宮、

其北治太液池。滌、莫朗反。

沔、胡朗反。

滌沔、猶洗濼、亦寬大也。

善曰、太液、已見西都賦。

滌、莫朗切。沔、胡朗切。

【太液已見西都賦】唐寫本作漢書曰建章宮其北治太液池十二字。四部本亦從卷一「西都賦」前唐中而後太液注錄、重出引文者、四部本之體例耳。但卷一「西都賦」注及四部本治作沔、今漢書郊祀志下作治、此唐寫本不誤。

【滌莫朗切】袁本明州本朝鮮本四部本無此四字、而正文滌字下有音注莫朗二字、崇本同。

【沔胡朗切】崇本袁本明州本朝鮮本四部本無此四字、而正文沔字下有胡朗反三字、但袁本反作切。

（正文）漸臺立於中央、赫眡、以弘敞。漸臺立於中央、赫眡眡以弘敞。

（注）

赫眡眡以弘敞

臣善曰、漢書曰、建章宮太液池、漸臺高廿餘丈。埤蒼曰、眡、赤文曰、眡、赤文也。音戶。也。音戶。

【漸臺高廿餘丈已見西都賦】唐寫本作漢書曰建章宮太液池漸臺高廿餘丈十五字、四部本亦從卷一「西都賦」前唐中而後太液注摘錄作漢書曰建章宮漸臺高二十餘丈十三字。

【埤蒼】蒼字、明州本作倉。

【眡赤文也】眡字、唐寫本誤作眡。

【音戶】袁本明州本朝鮮本四部本無此二字、而正文眡字下有音戶二字、崇本同。

（正文）清淵洋、神山峨、列瀛洲與方丈、夾蓬萊而駢羅、上林岑以壘罪、下漸巖以岳巖。

【淵】饒氏斟證云、淵字避諱缺末筆、以下多同、從略。

【瀛】唐寫本上野本作瀛。瀛字是也。

（注）

三山形兒也。

臣善曰、峨、高大也。輔三代舊事曰、建章宮北作清淵海三。毛詩曰、河水洋、

善曰、三輔三代舊事曰、建章宮北作清淵海。毛詩曰、河水洋洋、三山已見西都賦。

三山形兒也。峩、高大也。輔三代舊事曰、建章宮北作清淵海。毛詩曰、河水洋洋、三山已見西都賦。



波山已見西都賦。駢、猶併也。壘、魯罪切。也。𩇛、音吾。

駢、猶並也。壘、魯罪切。𩇛、音罪。𩇛、士咸切。𩇛、音吾。

【我峩高大也】唐寫本此五字在「臣善曰」下。伏氏校注63云、「按、唐寫本是、李善注傅武仲《舞賦》亦曰、「我峩、高也」與此同、故當爲善注、非薛綜注。此乃今本李注誤爲薛注者。」

【三輔】唐寫本脫「三」字。

【淵海】「海」字下、唐寫本衍「三」字。

【洋洋】唐寫本脫「洋」字。

【三山】「三」字、唐寫本誤作「波」字。饒氏斟證云、「此節注永隆本特多誤筆、如「三輔」脫「三」字、「清淵海」下衍「三」字、「三山」又誤作「波山」。」

【三山已見西都賦】四部本作「漢書曰太液池中有蓬萊方丈瀛洲象海中仙山」十九字。從卷一「西都賦」前唐中而後大液」注摘錄、重出引文者、四部本之體例耳。

【並也】「並」字、唐寫本作「併」。伏氏校注66云、「按、併」在央部、「併」在嬰部、古韻不同、「廣韻」同入迥韻、後世混淆。」

【壘魯罪切罪罪壘士咸切】唐寫本袁本朝鮮本明州本四部本無此十一字。崇本袁本朝鮮本明州本四部本正文「壘」字下有音注「魯罪」二字、「罪」字下有「音罪」二字（袁本朝鮮本明州本四部本無「音」字）、「壘」字下有音注「士咸」二

字。疑五臣音注混入李善注。

【語音吾】「語」字、唐寫本誤作「𩇛」。袁本朝鮮本明州本四部本無此三字、而正文「𩇛」字下有「音吾」二字、崇本同。饒氏斟證云、「此種紛岐、頗難究詰。」

12 a

（正文）長風激於別島、起洪濤而揚波、「長風激於別島、起洪濤而揚波」

【障】唐寫本先作「障」、抹後記「島」字於傍。九条本崇本袁本朝鮮本明州本作「島」、上野本尤本胡刻本作「障」、袁本朝鮮本明州本校記云、「薛綜「島」爲「障」。」四部本校記云、「五臣作「島」。」九条本傍記云、「障」五。」高氏義疏云、「障」與「島」同字。」饒氏斟證云、「永隆本止改正文、注仍作「障」。」

（注）

水中之洲曰障。音島。

臣善曰、高唐賦曰、長風至 善曰、高唐賦曰、長風至而波起。

【音島】唐寫本無此二字。伏氏校注68云、「按、此非薛注、後人誤入者也。」

濯靈芝以朱柯

【以】唐寫本上野本九条本作「之」、崇本袁本朝鮮本明州本作「於」、四部本與尤本胡刻本同作「以」、四部本校語云、

「五臣作於」。伏氏校注 69 云、「按靈芝之朱柯指靈芝的赤色莖杆、作于、作以皆非是、唐寫本是。」

（注）

石菌、靈芝、北海中神山所有神草名、仙之所食者也。浸、濯也。重涯、池邊也。朱柯、芝草莖赤色也。

臣善曰、菌、芝屬。抱朴子曰、芝有石芝。菌、求隕反。

石菌、靈芝、皆海中神山所有神草名、仙之所食者。浸、濯也。重涯、池邊也。朱柯、芝草莖赤色也。

【皆海】〈皆〉字、唐寫本作〈北〉字。伏氏校注 70 云、「按、作皆是。疑皆字下殘缺、遂作比、又誤作北。」

【所食者】〈者〉字下、唐寫本無也字。

【池邊】〈邊〉字下、唐寫本無也字。

【芝屬】〈屬〉字下、唐寫本無也字。

【石芝】四部本脫芝。

（正文）海若遊於玄渚、鯨魚失流而蹉跎。〈海若游於玄渚、鯨魚失流而蹉跎〉

【游】唐寫本上野本作遊。

【蹉】唐寫本上野本作跎。伏氏校注 75 云、「按、跎爲說文」新附字、蹉爲後起俗字。『正字通』〈跎、俗作蹉〉。從它、從也之字、古常通用。」

海若、海神。鯨、大魚也。一海若、海神。鯨、大魚。

（注）

海若、海神。鯨、大魚也。一海若、海神。鯨、大魚。

臣善曰、楚辭曰、令海若無馮夷。又曰、臨沅湘之玄淵。薛君韓詩章句曰、水一溢一否爲渚。三輔三代舊事曰、清淵北有鯨魚、刻石爲之、長三文。楚辭曰、驥垂兩耳、中坂蹉跎。

善曰、楚辭曰、令海若無馮夷。又曰、臨沅湘之玄淵。薛君韓詩章句曰、水一溢而爲渚。三輔舊事曰、清淵北有鯨魚、刻石爲之、長三文。楚辭曰、驥垂兩耳、中坂蹉跎、失足也。

【大魚】〈魚〉字下、唐寫本有也字。

【舞】唐寫本作無。伏氏校注 76 云、「按、無爲假借字。『周禮』地官鄉大夫〈五日興舞〉鄭玄注〈故書舞爲無、杜子春無讀爲舞〉。」

【水一溢而爲渚】〈而〉字、唐寫本作一否二字。唐寫本是也。高氏義疏云、「唐寫作水一溢一否爲渚、與詩江有汜」《釋文》引《韓詩》合。陳喬樞《韓詩遺說攷》曰、一溢一否者、謂一溢而一涸、是也。」

【三輔舊事】唐寫本作三輔三代舊事、北宋本殘卷袁本朝鮮本明州本四部本及九条本眉批引善注作三代舊事。胡氏考異云、「案此當三輔三代重有、三輔三代舊事屢引、尤校添而又脫三代耳。」黃氏北宋本殘卷校證云、「唐書經籍志地理類〈三輔舊事三卷〉不著撰人、起居注類〈韋氏三輔舊事一卷〉。清張澍曰、〈文選西京賦注引、陶徵士誄注引二書、稱三輔三代舊事、選注所引佗事、祇稱故事舊事、無三代二字、疑引者誤衍二字耳。〉（三

輔舊事序) 此書名一見于地理類、一見於起居注類、則是兩書也。張氏所輯是地理之書、文選注此條所引似亦是地理之書、然敦煌本作《三輔三代舊事》、則胡校甚是也。」

【蹉跎】唐寫本作《蹉跎》。

【廣雅曰蹉跎失足也】唐寫本無此八字。高氏義疏云、一今《廣雅》亦無此文。王念孫《疏證》據此注補。「疑後人增補。」

(正文) 於是采少君以端信、庶欒大之貞固、(於是采少君之端信、庶欒大之貞固)

【少君之】《之》字、唐寫本作《以》。伏氏校注80云、「按、唐寫本是也。《以》《之》通訓、《經傳釋詞》已言之。此句《以》、《之》對文、不重複、正文章家用心。」

(注)

臣善曰、少君、欒大已見西都賦。人姓名及事易知而別卷重見者、云見某篇、亦從省也。他皆類此也。

善曰、史記曰、李少君亦以祠竈穀道却老方見上、上尊之。少君者、故深澤侯舍人、主方。欒大見西都賦。凡人姓名及事易知而別卷重見者、云見某篇、亦從省也。他皆類此。

【史記曰李少君亦以祠竈穀道却老方見上上尊之少君者故深澤侯舍人主方】唐寫本此三十一字作《少君》二字。案「西都賦」注無《李少君》名、疑唐寫本有誤。高氏義疏云、

「案《西都》文成五利、文成謂少翁、非少君也。唐寫本非是。」伏氏校注81亦云、「此殆抄手誤記也。」九条本紙背作《善曰史記曰李少君亦以祠完穀道却老方見上上尊之》二十三字。

【欒大見西都賦】唐寫本《見》上有《已》字。案作《已見》者、李善注之體例也。板本脫耳。四部本此六字作《漢書曰樂成侯登上書言欒大天子見大悅大曰臣之師有不死之藥可得仙人可致乃拜大為五利將軍》四十一字、從卷一「西都賦」《馳五利之所刑》注取錄、重出引文者、四部本之體例耳。

饒氏輯證云、「案西都賦五利下刪引漢書、胡刻叢刊並於《日》上脫《大》字、致誤欒大語為武帝語。而叢刊本補錄此注則作《大日》、不誤。」九条本紙背作《又曰樂成侯上書言奕大天子見大悅乃拜為五利將軍》二十二字。

【凡】唐寫本無《凡》字。九条本眉批引與板本同。《凡人姓名》以下二十六字、四部本誤入五臣呂尚注。

【他皆類此】《此》下、唐寫本有《也》字。(正文) 立脩莖之仙掌、承雲表之清露、屑瓊藥以朝飧、必性命之可度、(立脩莖之仙掌、承雲表之清露、屑瓊藥以朝飧、必性命之可度、必性命之可度)

【脩】上野本作《脩》。

【藥】上野本作《藥》。『正字通』云、「《莖》、俗《莖》字。」

【飧】唐寫本上野本作《飧》。高氏義疏云、「《飧》當作《餐》、字亦作《飧》。此作《飧》誤。饗飧字則从夕、不从歹。」

（注）

臣善曰、漢書曰、孝武又作栢梁、銅柱、承露僊人掌之屬矣。三輔故事曰、武帝作銅露槃、承天露、和玉屑飲之、欲以求仙。楚辭曰、精瑣靡以爲糧。王逸曰、靡、屑。

善曰、漢書曰、孝武作栢梁、銅柱、承露仙人掌之屬。三輔故事曰、武帝作銅露盤、承天露、和玉屑飲之、欲以求仙。楚辭曰、屑瑣靡以爲糧。王逸曰、糜、屑也。

【孝武作】唐寫本〈作〉上有〈又〉字。案『漢書』郊祀志上有〈又〉字、板本脫耳。

【之屬】唐寫本〈屬〉下有〈矣〉字。案『漢書』郊祀志上有〈矣〉字、板本脫耳。

【銅露盤】〈盤〉字、唐寫本作〈槃〉。

【承天露】〈承〉字、朝鮮本作〈盛〉。

【屑瑣靡以爲糧】唐寫本作「精瑣靡以爲糧」。案今「楚辭」離騷作「精瑣靡以爲糧」、『文選』卷三十二離騷同。唐寫本似是、但〈靡〉字當作〈糜〉、〈糧〉字當作〈糧〉。

【糜屑也】唐寫本作「糜屑」。案今「楚辭」離騷「精瑣靡以爲糧」王逸注作「糜屑也」。板本〈糜〉誤作〈糜〉。

12 b  
（正文）美往昔之松橋、要羨門乎天路、（美往昔之松橋、要羨門乎天路）

【番】唐寫本作〈橋〉。伏氏校注88云、「按、作〈番〉是、

唐寫本注文亦作〈番〉。然作〈橋〉亦不爲誤、〈番〉〈橋〉本可通訓假借。《詩·漢廣》〈南有喬木〉、《釋文》〈喬本亦作橋〉、三國時吳國二喬、亦作二橋。」

【乎】上野本作〈於〉。

（注）

臣善曰、列仙傳曰、赤松子者、神農時雨師也。服水玉。又曰、王子喬者、周靈王太子晉也。道人浮丘公接以上嵩高山。史記曰、始皇之碣石、使燕人盧生求羨門、

照曰、羨門、古仙人也。枚乘樂府詩曰、美人在雲端、天路隔無期。要、鳥堯切。

乘樂府詩曰、美人在雲端、天路隔無相期也。

【松喬已見西都賦】唐寫本作「列仙傳曰赤松子者神農時雨師也服水玉又曰王子喬者周靈王太子晉也道人浮丘公接以上嵩高山」四十一字。四部本亦從卷一「西都賦」〈庶松喬之羣類〉注重出、〈玉〉下有〈以教神農〉四字。

【韋昭】〈昭〉字、唐寫本作〈照〉。饒氏斟證云、「韋昭本名昭、史爲音諱改作曜。永隆本或作〈照〉、閒或作〈昭〉、各刻本概作〈昭〉。」

【無期】唐寫本作「無相期也」。饒氏斟證云、「〈相〉字永隆本引枚乘詩誤衍。」伏氏校注92云、「詩尾不當有〈也〉」

字。」

【要鳥堯切】唐寫本無此四字。饒氏斟證云、「殆非善注、刻本誤以他注混入。」

（正文）想升龍於鼎湖、豈時俗之足慕。

（注）

臣善曰、史記曰、齊人公孫卿曰、黃帝采首山銅、鑄鼎於荆山下。鼎既成、龍垂胡髯、下迎黃帝。上騎龍、乃上去。名其處鼎湖。天子曰、嗟乎、誠得如黃帝、吾視去妻子如脱屣耳。

善曰、史記曰、齊人公孫卿曰、黃帝采首山銅、鑄鼎於荆山下。鼎既成、龍垂胡髯、下迎黃帝。黃帝騎龍、乃上去。名其處鼎湖。天子曰、嗟乎、誠得如黃帝、吾視去妻子如脱屣耳。

【黃帝騎龍】（黃帝）二字、唐寫本作（上）一字。高氏義疏云、「案、（黃帝上）三字皆當有。」今『史記』封禪書云、

「有龍垂胡髯、下迎黃帝。黃帝上騎、羣臣後宮從上者七十餘人、龍乃上去。」饒氏斟證云、「此段善注引史記封禪文書有刪節。永隆本不復（黃帝）字、應從刻本加、刻本（騎）上無（上）字、應從永隆本加、文義乃足。」

【上去】（上）字、袁本誤作（土）。

（正文）若歷世而長存、何遽營乎陵墓。

【世】饒氏斟證云、「永隆本（世）字不缺筆。」

【乎】上野本作（於）。

（注）

臣善曰、言若歷世不死而長存、何急營於陵墓乎。善曰、言若歷代而不死、何急營於陵墓乎。

【歷代】（代）字、唐寫本作（世）。

【而（不死）】唐寫本作（不死而長存）。饒氏斟證云、「永隆本此句、當是善初注原貌。胡刻本叢刊本並作（言歷代而不死）、殆是後注曾刪潤。」

（正文）徒觀其城郭之制、則旁開三門、參塗夷庭、方軌十二、街衢相經。

（注）

面三門、參三道、故云參塗。容四軌、故方十二軌。夷、猶車轍也。夷、平也。庭、猶正也。

街、大道也。經、歷也。一面三門、門三道、故云參塗。容四軌、故方十二軌。軌、車轍也。夷、平也。庭、猶正也。

善曰、方、言九軌之塗、凡有十二也。周禮曰、營國方三門。鄭玄儀禮注曰、方、併也。周禮曰、國中營途九門。西都賦曰、立十二之通

【街大道也經歷也】唐寫本無此八字。  
【塗】唐寫本作（塗）。

【善曰方言九軌之塗凡有十二也周禮曰營國方三門鄭玄儀禮注曰方併也周禮曰國中營途九軌西都賦曰立十二之通門】唐寫本無此四十九字。伏氏校注96云、「按、李善《文選注》體例、釋字詞必徵引經史傳注為據、陳述已見、則冠以〈言〉或〈然〉字于其後、無有先陳述已見而後引經據典者。且薛注把〈方軌〉已解釋清楚、毋須重復。故此句疑為後人竄亂者。上海古籍出版社（一九八六年八月版）『文選』李注標點本句讀為〈善曰、『方言』、九軌之塗、凡有十二也。……〉此句既不見于今本『方言』、又不合『方言』釋詞體例、顯繫誤讀。」

【慶】唐寫本作〈厘〉、注同。上野本作〈纏〉。案『干祿字書』云、「〈厘〉〈慶〉上通下正。」

【空】唐寫本作〈宅〉。九条本眉批引與板本同作〈空〉。饒氏斲證云、「周禮地官載師〈以廛里任國中之地〉、鄭注〈鄭司農云、廛、市中空地未有肆、城中空地未有宅者。玄謂廛里者、若今云邑居里矣。廛、民居之區域也。里、居也。孫詒讓曰、〈通言之、廛里皆居宅之稱。析言之、則庶人工商等所居謂之廛、士大夫所居謂之里。〉薛注作

都邑之宅地曰廛。廛、棟也。臣善曰、周禮曰、以厘里任國中之地。善曰、周禮曰、以廛任國中之地。

都邑之宅地曰廛。廛、棟也。臣善曰、周禮曰、以厘里任國中之地。善曰、周禮曰、以廛任國中之地。

都邑之宅地曰廛。廛、棟也。臣善曰、周禮曰、以厘里任國中之地。善曰、周禮曰、以廛任國中之地。

都邑之宅地曰廛。廛、棟也。臣善曰、周禮曰、以厘里任國中之地。善曰、周禮曰、以廛任國中之地。

都邑之宅地曰廛。廛、棟也。臣善曰、周禮曰、以厘里任國中之地。善曰、周禮曰、以廛任國中之地。

〔宅地〕、蓋不用先鄭說。」伏氏校注98云、「依唐寫本作〈宅〉是、且賦正文〈廛里端直、甍宇齊平〉、〈廛里〉〈甍宇〉對文、更證作〈宅地〉是。」

【廛任】唐寫本〈廛〉下有〈里〉字。胡氏考異云、「案〈廛〉下當有〈里〉字、各本皆脫。此載師職文也。」『周禮』地官載師亦有〈里〉字。唐寫本不脫。

【北闕甲第、當道直啓】北闕甲第、當道直啓。〔北闕甲第、當道直啓〕

第、館也。甲、言第一也。臣善曰、漢書曰、贈霍光甲第一區。音義曰、有甲乙次第、故曰、第也。北闕、當帝城

【北闕當帝城之北也】唐寫本無此八字。

【阨】唐寫本上野本〈阨〉作〈陀〉。但唐寫本下注作〈阨〉。伏氏校注101云、「按、〈陀〉、〈阨〉異體字。《集韻》〈陀〉、或作阨。」

言皆程擇好工匠、令盡致其功夫。既罕又固、不傾侈也。善曰、方言曰、阨、式氏

言皆程擇好工匠、令盡致其功夫。既罕又固、不傾侈也。善曰、方言曰、阨、式氏

反。說文曰、陟、落也。陟、陶、式氏切。說文曰、陶、直氏反也。

落也。直氏切。

武庫、天子主兵器之官也。

錡、架也。武庫、天子主兵器之官也。

【好匠】唐寫本匠上有工字。

【功夫】夫字、袁本誤作天。

【牢】唐寫本作窄。『干祿字書』云、「窄、上俗下正。」

【陶壞也】唐寫本無此三字。饒氏斟證云、「案『方言』六、陶壞、郭注、謂壞落也、永隆本蓋有誤脫。」

【陶落也】陶字、唐寫本作陟。胡氏考異云、「案陶當作陟。各本皆誤。」今『說文』與唐寫本同。

【直氏切】唐寫本作陟直氏反也。板本脫陟字、但音注下不當有也字、唐寫本衍耳。

【被】唐寫本作披。  
【披】唐寫本作披。

言皆采書如錦繡之文章也。

言皆采畫如錦繡之文章也。  
善曰、說文云、綈、厚繒也。  
朱紫、二色也。

【畫】唐寫本作書。

【善曰說文云綈厚繒也朱紫二色也】唐寫本無此十四字。  
【正文】武庫禁兵、設在蘭錡。

【注】

臣善曰、劉逵魏都賦注曰、受他兵曰蘭、受弩曰錡、音蟻也。

【錡架也】唐寫本無此三字。饒氏斟證云、「此殆後人所加。如薛注原有、則應順文次序、不在武庫之上。」

【官】四部本作宮。

【劉逵魏都賦注】胡氏考異云、「此有誤也。《吳都》有

蘭錡內設、《魏都》有附以蘭錡、今善於兩都舊注中、皆不更見。此所引語、無以決其當為劉逵與都賦注

日、或當為張載魏都賦注日也。凡善各篇所留舊注、均非全文。」梁氏旁證云、「劉逵當作張載。」高氏義疏云、「此注疑不誤。唐寫本亦同。《隋書·經籍志》云、

梁有張載及晉侍中劉逵、晉懷令衛瓘注左思《三都賦》三卷。」是《魏都賦》張、劉皆有注。今《魏都賦》即張

注。而《附以蘭錡》下無此注、則當為劉逵注也。」饒氏斟證云、「案魏都賦《附以蘭錡》句下、吳都賦《蘭錡內

設》句下、並引西京賦句。吳都注在劉日之下、魏都注在善日之下、然並無注釋、不見此處所引十餘字。善于

兩京賦薛注已有去留、則於三都賦之劉注或張注有所刪汰、並不足異。」

【蘭】唐寫本作闌。高氏義疏云、「闌、蘭之通借

字。『說文』曰、簡、所以盛弩矢、人所負也。」

【弩】唐寫本誤作「怒」。

【音蟻】唐寫本「蟻」下有「也」字。

（正文）非石非董、疇能宅此。〔匪石匪董、疇能宅此〕

【匪】唐寫本作「非」。『廣雅』釋詁四云、「匪、非也。」

〔非〕〔匪〕字通。

【能】饒氏斠證云、「永隆本初脫能字、後淡墨旁加。」

（注）

臣善曰、漢書曰、石顯、字君房。少坐法腐刑、爲黃門

中尚書。元帝被疾、不親政事。、無大小、因顯自決。

又曰、董賢、字聖卿。哀帝悅其儀兒、拜爲黃門郎。詔

將作爲賢起大第北闕下。木功、窮極技巧、柱檻衣以綈

錦、武庫禁兵、盡在董氏。

善曰、漢書曰、石顯、字君房。少坐法腐刑、爲黃門中

尚書。元帝被疾、不親政事。事無大小、因顯口決。又曰、

董賢、字聖卿。哀帝悅其儀貌、拜爲黃門郎。詔將作監

爲賢起大第北闕下。土木之功、窮極技巧、柱檻衣以綈

錦、武庫禁兵、盡在董氏。

【口決】〔口〕字、唐寫本作「自」。『漢書』倭幸傳作「白」。

高氏義疏云、「〔口〕、〔自〕皆〔白〕字之誤、當依『漢書』

正之。」

【作監】唐寫本無「監」字。『漢書』倭幸傳「監」作「大匠」。

【土木】唐寫本作「木土」。『漢書』倭幸傳亦作「木土」。

唐寫本是也。板本誤倒耳。

（正文）尔乃廓開九市、通關帶闕、〔爾乃廓開九市、通

關帶闕〕

【爾】唐寫本作「尔」。上野本作「尔」。『干祿字書』云、「

尔」〔尔〕〔爾〕並上通下正。」唐寫本多作「尔」、下不再出

校。

（注）

廓、大也。闕、市營也。闕、廓、大也。闕、市營也。闕、

中隔門也。

臣善曰、漢宮閣疏曰、長安立九市、其六市在道西、三

市在道東。闕、胡關反。善曰、九市、已見西都賦。

若頡篇曰、闕、市門。胡關切。

市在道東。闕、胡關反。

【崔豹古今注曰市牆曰闕市門曰闕】唐寫本無此十四字。

九条本眉批引薛注亦有此十四字。梁氏旁證云、「按『善

曰』二字、當在『崔豹』上。今在『曰闕』下、非也。崔豹晉

人、非薛注所得引。」胡氏箋證云、「疑是後人竄入。薛、

三國時人、不得引崔豹。」饒氏斠證云、「或疑薛綜不能

引崔說應在『善曰』之下、然善順文作注、又不應在『九市』

之上、殆後人混入。」

【九市已見西都賦】唐寫本作漢宮閣疏曰長安立九市其六

市在道西三市在道東二十一字。四部本亦從卷一「西都賦」

〔九市開場〕注重出。但「闕」字、四部本及各本卷一作「



闕。伏氏校注<sup>116</sup>云、「按、顏師古《漢書注》、《藝文類聚》、《初學記》及李善注別處皆引作《漢宮闕疏》、作《闕形近而誤。」

【蒼頡篇曰闕市門】唐寫本無此七字。胡氏箋證云、「善引《倉頡篇》亦與諸義不合。」伏氏校注<sup>117</sup>云、「按、善引舊注、皆是擇其以為正確者、故所引書據、無有與舊注歧義的。唐寫本無此句是也。今本釋一詞而并列兩種不同說法者、唐寫本只有一種講法、則并列的不同說法當為後人讀書記其異于旁而誤入正文者。」

【胡關切】袁本朝鮮本明州本四部本無此三字、正文《闕》字下有音注《胡關》二字、但崇本無此音注、疑五臣注原本無此、後據李善音注而記之。

(正文) 旗亭五重、俯察百隧。

(注)

旗亭、市樓也。隧、列肆道也。旗亭、市樓也。

臣善曰、史記褚先生曰、臣為郎、與方士會旗亭下。

善曰、史記褚先生曰、臣為郎、與方士會旗亭下。已見西都賦。

【市樓也】此下唐寫本有《隧列肆道也》五字。案卷一「西都賦」《貨別隧分》李善注云、「薛綜西京賦注曰、隧、列肆道也。音遂。」薛注原有此注、唐寫本是也。板本從善注增《隧已見西都賦》六字、刪去薛注此五字耳。

【隧已見西都賦】唐寫本無此六字。唐寫本是也、說見前。四部本作《薛綜西京賦注曰隧列肆道也音遂》十四字、疑後人見板本《隧已見西都賦》六字、從卷一「西都賦」注而重出。

(正文) 周制大胥、今也惟尉。《周制大胥、今也惟尉》【胥】唐寫本上野本作《胥》、注同。『干祿字書』云、「《胥》《胥》上通下正。」饒氏對證云、「與漢韓勅碑同。」

(注)

臣善曰、周禮曰、司市、胥師廿人。然尊其職、故曰大。漢書曰、京兆尹、長安四市皆屬焉、與左馮翊、右扶風為三輔。更置三輔都尉。

善曰、周禮曰、司市、胥師廿人。然尊其職、故曰大。漢書曰、京兆尹、長安四市皆屬焉、與左馮翊、右扶風為三輔。然市有長丞而無尉。蓋通呼長丞為尉耳。

【二十人】唐寫本作《廿》。凡唐寫本《二十》《三十》《四十》各作《廿》《卅》《卌》、下不再出校。胡氏考異云、「《八十》字下當有《肆則》一三字。各本皆脫。此『周禮』地官序官文也。」但唐寫本既無《肆則》一三字。

【職】唐寫本九条本紙背引作《職》。『玉篇』云、「《職》、俗《職》字。」

【京】唐寫本作《京》。『干祿字書』云、「《京》《京》、上通下正。」下不再出校。

【然市有長丞而無尉蓋通呼長丞為尉耳】朝鮮本《呼》作《

乎。唐寫本作「更置三輔都尉」六字。案五臣李周翰注云、「周禮市致大胥職，今但屬三輔都尉。」（四部本「今」誤作「令」）此與唐寫本李善注意略同。高氏義疏云、「唐寫李注無然，市有長丞」以下十六字，作「更置三輔都尉」六字，與翰注意同，與今本迥異。疑今本非是。」饒氏斟證云、「反與賦文不照，殆後人誤改，而翰注襲用者乃未誤改之本也。」伏氏校注120云、「按，唐寫本是。正文「周制大胥，今也惟尉」，謂《周禮》市致大胥職，今但屬三輔都尉。唐寫本正是此意。依今本，僅推揣之詞，意不合矣，此其一。其二，李注乃節引《漢書·百官公卿表》、《公卿表》謂「右扶風與左馮翊，京兆尹是為三輔……元鼎四年更置三輔都尉，都尉丞各一人。」唐寫本與之正合。」

九條本紙背作「漢書曰市有長丞而無尉蓋通呼長丞為尉耳」十八字。今「漢書」無此文，疑「漢書曰」下有脫文。

13 b

【正文】瑰貨方至、鳥集鱗萃、（環貨方至、鳥集鱗萃）

【環】唐寫本上野本作「瑰」、與注正合。

（注）

瑰、奇貨也。方、四方也。瑰、奇貨也。方、四方也。言奇寶有如鳥之集、鱗之接。奇寶有如鳥之集、鱗之萃也。也。

【瑰】朝鮮本作「環」、與正文正合。他板本作「瑰」、與正文不合。

【奇寶】唐寫本「奇」上有「言」字。饒氏斟證云、「胡刻六臣并誤脫「言」字。」伏氏校注121云、按、薛注《西京》、析訓單字、無有冠「言」字者。渾釋句意、往往冠以「言」字。據此、則唐寫本是也。」

【萃】唐寫本作「接」。

（正文）鬻者兼贏、求者不匱。（鬻者兼贏、求者不匱）

【贏】唐寫本上野本作「贏」。饒氏斟證云、「「贏」乃「贏」之譌、注同。」

（注）

鬻、賣也。兼、倍也。贏、鬻、賣也。兼、倍也。贏、利也。匱也。匱、乏也。

【贏】唐寫本作「贏」。當作「贏」字。

【匱乏也】唐寫本「匱」下脫「乏」字。

（正文）尔乃商賈百族、裨販夫婦、（尔乃商賈百族、裨販夫婦）

販夫婦）

【商】尤本作「商」、但注文作「商」。『干祿字書』云、「商」

商「商」、上俗下正。」

（注）

坐者為商、行者為賈。裨販、坐者為商、行者為賈。裨販、買賤賣貴、以自裨益者。裨、買賤賣貴、以自裨益。裨、必彌切。

臣善曰、周禮曰、大市、日、善曰、周禮曰、大市、日、市、百族為主。朝市、朝

朝時而市、商賈爲主。夕市、時而市、商賈爲主。夕市、日夕爲市、販夫販婦爲主也。

【裨益】唐寫本〈益〉下有〈者〉字。

【裨必彌切】唐寫本無此四字。袁本朝鮮本明州本四部本正文〈裨〉下有音注〈必彌〉二字、崇本作〈必尔〉。板本薛注混入五臣音注、唐寫本是也。高氏義疏云、「後人竄入。」饒氏斟證云、「知薛注混入之音切、殆在增併六臣注之前。」伏氏校注<sup>123</sup>云、「凡薛注中有反切者、皆後人竄入。」

【仄】唐寫本作〈仄〉。〈仄〉〈仄〉同。下文〈駢田偃仄〉、胡刻本亦作〈仄〉。

【夕時爲市】唐寫本作〈日夕爲市〉。『周禮』地官司市作〈日夕而市〉。高氏義疏云、「此注尤本〈日夕而市〉而誤爲〈爲〉。」饒氏斟證云、「永隆本微誤、各刻本亦以〈而〉作〈爲〉。」

【裨販夫婦爲主】唐寫本作〈販夫販婦爲主也〉、袁本朝鮮本明州本四部本同、但無〈也〉字。高氏義疏云、「〈販夫販婦〉作〈裨販夫婦〉、亦涉正文而誤。唐寫及六臣本皆不誤。」饒氏斟證云、「永隆本六臣本同、與周禮地官司市合。」

(正文) 鬻良雜苦、蚩眩邊鄙。

(注) 良、善也。先見良物、價定。良、善也。先見良物、價定而雜與惡物、以欺或下土之。而雜與惡物、以欺惑下土之。

人也。

臣善曰、周禮曰、辯其苦良而買之。鄭司農曰、苦讀爲監也。

人。  
善曰、周禮曰、辨其苦良而買之。鄭玄曰、苦讀爲監。蒼頡篇曰、蚩、侮也。廣雅曰、眩、亂也。杜預左氏傳注曰、鄙、邊邑也。

【惑】唐寫本作〈或〉。高氏義疏、饒氏斟證、伏氏校注<sup>126</sup>並云、「〈惑〉或字通。」

【下土之人】唐寫本〈人〉之下有〈也〉字。

【辨】唐寫本尤本袁本明州本作〈辯〉。

【買之】〈買〉字、唐寫本作〈買〉。案『周禮』天官典婦功作〈買〉、與唐寫本合、板本誤耳。

【鄭玄】唐寫本作〈鄭司農〉。案此文見『周禮』天官典婦功鄭玄引鄭司農注、唐寫本是也。

【苦讀爲監】唐寫本〈監〉作〈監〉、下有〈也〉字。案『周禮』注作〈監〉、無〈也〉字。伏氏校注<sup>128</sup>云、「作〈監〉疑爲形誤。」蒼頡篇曰蚩侮也廣雅曰眩亂也杜預左氏傳注曰鄙邊邑也唐寫本無此二十四字。

(正文) 何必昏於作勞、邪羸優而足恃。(何必昏於作勞、邪羸優而足恃)

(注) 羸 上野本作〈羸〉。〈羸〉字是也。

昏、勉也。優、饒也。言何一昏、勉也。邪、僞也。優、

必當勉力作勤勞之事乎。欺偽之利、自饒足恃也。

臣善曰、尚書曰、不昏作勞也。

饒也。言何必當勉力作勤勞之事乎。欺偽之利、自饒足恃也。善曰、尚書曰、不昏作勞。

【邪偽也】唐寫本無此三字。高氏義疏云、「是此疑後人所竄。胡紹煥曰、邪當讀與餘同。邪羸猶羸餘。」

【勤】唐寫本作「慤」。『干祿字書』云、「慤」上勤勞下慤慤。但『毛詩』幽風鴟鴞「恩斯勤斯」鄭箋云、「慤勤於此」、周頌賚「文王既勤止」毛傳云、「勤勞」、

蓋「勤」慤字通。『正字通』云、「慤」、同「勤」。韻補「勤勞也、慤、慤也。」分為「一、非。」

【作勞】唐寫本「勞」下有「也」字。

【正文】彼肆人之男女、麗靡奢乎許史。彼肆人之男女、麗美奢乎許史。

麗美奢乎許史

【美】唐寫本上野本作「靡」。伏氏校注<sup>131</sup>云、「唐寫本是、麗靡同義為詞、古時常用。」

（注）

言長安市井之人、被服皆過此二家。

臣善曰、漢書曰、孝宣許皇后、元帝母、生元帝、封外祖父廣漢為平恩侯。又曰、

善曰、漢書曰、孝宣許皇后、元帝母、帝封外祖父廣漢為平恩侯。又曰、衛太子史良

衛太子史良娣、宣帝祖母也。兄恭、宣帝立、恭已死、封恭長子高為樂陵侯。

【言長安市井之人被服皆過此二家】唐寫本無此十四字。【元帝母】唐寫本「母」下有「生元帝」三字。伏氏校注<sup>133</sup>云、「凡善注所引舊籍、多為摘引。此處「生元帝」三字亦為《漢書·外戚傳》文、然帝封許皇后父廣漢為平恩侯、乃許皇后崩五年、立皇太子後之事、故摘引亦不確。」

14 a 若夫翁伯濁質、張里之家、擊鍾鼎食、連騎相過、東京公侯、壯何能加。若夫翁伯濁質、張里之家、擊鍾鼎食、連騎相過、東京公侯、壯何能加。

【鍾】上野本作「鐘」、袁本明州本四部本亦作「鐘」、注同。朝鮮本唯注作「鐘」耳。

（注）

臣善曰、漢書曰、翁伯以敗脂而傾縣邑、濁氏以胃脯而連騎、質氏以洩削而鼎食、張里以爲醫而擊鍾。晉灼曰、胃脯、今大官常以十月作沸湯、燂羊胃、以末椒薑拊之、訖、暴使燥者也。燂、翔塩反。拊、步寸反。如淳曰、

善曰、漢書食貨志曰、翁伯以敗脂而傾縣邑、濁氏以胃脯而連騎、質氏以洩削而鼎食、張里以馬醫而擊鍾。晉灼曰、胃脯、今大官以十日作沸湯、燂羊胃、以末椒薑拊之、訖、曝使燥者也。燂、在鹽切。拊、步寸切。如淳

善曰、漢書曰、翁伯以敗脂而傾縣邑、濁氏以胃脯而連騎、質氏以洩削而鼎食、張里以爲醫而擊鍾。晉灼曰、胃脯、今大官以十日作沸湯、燂羊胃、以末椒薑拊之、訖、曝使燥者也。燂、在鹽切。拊、步寸切。如淳

善曰、漢書曰、翁伯以敗脂而傾縣邑、濁氏以胃脯而連騎、質氏以洩削而鼎食、張里以爲醫而擊鍾。晉灼曰、胃脯、今大官以十日作沸湯、燂羊胃、以末椒薑拊之、訖、曝使燥者也。燂、在鹽切。拊、步寸切。如淳

酒削、作刀劍削也。晉灼曰、曰、洗削、謂作刀劍削也。張里、里名也。

張里、里名也。

【食貨志】唐寫本無此三字。饒氏斟證云、「案所引漢書乃貨殖傳文、此後人以旁批誤混者。」【販】唐寫本誤作「敗」。

【濁氏】「氏」字、袁本誤作「昏」。

【胃脯】「脯」字、袁本作「舖」、下同。九条本紙背引「胃」誤作「買」。

【質氏以洗削】「洗」字、唐寫本作「洩」。饒氏斟證云、「洩」乃「酒」字形近之譌、下文「酒」字不誤、各本上下文並作「洗」、與漢書原文不合。」

【馬醫】唐寫本作「爲醫」、並字形近之譌。饒氏斟證云、「爲」乃「馬」之譌、「醫」乃「醫」之譌。」

【大官以十日】唐寫本「以」上有「常」字、「日」作「月」、並與「漢書」貨殖傳合、板本誤耳。胡氏考異云、「案「日」當作「月」、各本皆譌。」「大」字、四部本作「太」、與「漢書」貨殖傳合。

【訖】饒氏斟證云、「訖」字與「史記」索隱引同、「漢書」注無。」

【曝】唐寫本作「暴」、與「漢書」貨殖傳注合。伏氏校注138云、「按、暴爲本字、曝爲後起字。」

【燥】唐寫本作「燥」。『干祿字書』云、「燥」上俗下正。」

【在鹽切】唐寫本作「翔塩反」。高氏義疏從唐寫本改「翔塩切」。伏氏校注139云、「按、燭有兩音、義同。《集韻》《慈鹽切》、《韻會》《昨鹽切》、並從紐字。《廣韻》《徐鹽切》、《集韻》《徐廉切》、并邪紐字。翔邪紐字、在從紐字、故作「在」不誤。郭晉稀師云、唐寫本作「翔塩反」是也、作從母者後世訛音也。」

【洗削】「洗」字、唐寫本作「洒」、是也。說見前。

【謂作刀劍削也】唐寫本北宋本殘卷袁本朝鮮本明州本四部本九条本眉批引無「謂」字、是也。『漢書』貨殖傳注作「作刀劍削者」。袁本朝鮮本明州本四部本九条本眉批引脫「削也」二字。「也」字下、唐寫本北宋本殘卷袁本朝鮮本明州本四部本九条本眉批引有「晉灼曰」三字、是也。胡氏考異云、「袁本茶陵本無「謂削也」三字、下有「晉灼曰」三字。案『漢書』顏注引如淳曰、作刀劍削者。尤依之校改也。」

【晉灼曰】三字誤去。」

【里名也】九条本眉批引無「也」字。

（正文）都邑遊俠、張趙之倫、齊志無忌、擬跡田文、  
都邑游俠、張趙之倫、齊志無忌、擬跡田文

（注）

臣善曰、漢書曰、長安宿豪大猾、箭張禁、酒趙放、皆通邪結黨。

善曰、漢書曰、長安宿豪大猾、箭張回、酒市趙放、皆通邪結黨。一云、張子羅趙君都、其長安大俠、具游俠傳。

【箭張回酒市趙放】唐寫本〈回〉作〈禁〉、〈酒〉下無〈市〉字。

此摘引『漢書』王尊傳文、今『漢書』作「長安宿豪大猾東市賈萬、城西萬章、翦張禁、酒趙放、杜陵楊章等皆通邪結黨」、與唐寫本合。高氏義疏云、「諸本〈禁〉作〈回〉、〈酒〉下有〈市〉字、乃後人誤以《游俠傳》亂之、今依唐寫改正。若依《游俠傳》、當作《箭張回、酒市趙君都、皆長安名豪、報仇怨、養刺客者也》。又《王尊傳》今本〈箭〉作〈翦〉。晉灼曰、此二人作翦、作酒之家。宋祁曰、〈翦〉、江南本、浙本並作〈箭〉。《游俠傳》作《箭張回、酒市趙君都、賈子光》。服虔曰、〈作箭者、姓張、名回。趙君都、賈子光、酒市中人也〉。顧炎武《日知錄》卷二十七、謂回即禁、君都即放也。其說當是。則〈翦〉字亦當依宋本作〈箭〉也。」

【邪】唐寫本作〈耶〉。『干祿字書』云、「〈耶〉〈邪〉、上通下正。」

【一云張子羅趙君都其長安大俠具游俠傳】唐寫本無此十七字。高氏義疏云、「案、《游俠傳》無張子羅、此〈張子羅〉以下十五字、乃五臣呂向注、後人采以附李注後者、實與李注不合。依唐寫削去。」

（正文）輕死重氣、結黨連羣、寔蕃有徒、其從如雲。

寔、實也。蕃、多也。徒、寔、實也。蕃、多也。徒、衆也。

衆也。

衆也。

臣善曰、尚書曰、寔煩有徒。善曰、尚書曰、寔繁有徒。毛詩曰、齊子歸止、其從如雲。毛詩曰、齊子歸止、其從如雲。

【繁】唐寫本作〈煩〉。伏氏校注<sup>144</sup>云、「按、《十三經注疏》本《尚書·仲虺之誥》作《寔繁有徒》、《經典釋文》《繁音煩》。則唐寫本作〈煩〉乃同音假借。又按、《仲虺之誥》爲僞古文、然唐初尚不知也。」

【其從如雲】唐寫本〈雲〉下有〈也〉字。

（正文）茂陵之原、陽陵之朱、趨悍虓壘、如虎如猓、  
〔趨〕唐寫本上野本作〈趨〉、注同。高氏義疏云、「案《漢書·衛青霍去病傳》顏注《虓》或作《趨》。《說文》曰、趨、行輕兒。一曰舉足也。唐寫正作〈趨〉、今從之。」伏氏校注<sup>148</sup>云、「《說文》曰、〈趨〉、行輕貌。一曰趨、舉足也。《趨》、善緣木走之才、二義相較、以唐寫本作《趨》爲長。顏注《虓》、或作《趨》、更可證明唐寫本是對的。」

〔豁〕唐寫本作〈壘〉、上野本作〈豁〉。伏氏校注<sup>146</sup>云、「按、《廣韻》《豁》、呼括切、《壘》、呵各切、古音同爲曉紐鐸部、同音通假。《爾雅·釋詁》《壘》、虛也。」郭璞注《壘》、溪壘也。《廣韻》《壘》、谷也。《玉篇》《壘》、通谷也。其義也相同。」

〔猓〕上野本九条本崇本袁本朝鮮本明州本四部本作《猓》。

（注）

（注）

臣善曰、原、原涉、朱、安世也。史記曰、誅獯獯。獯與趨同、欺譙反。說文曰、悍、勇也、戶旦反。毛詩曰、鬪如虓虎。虓、呼交反。尔雅曰、猖獗、似狸。猖、勅珠反。

善曰、原、原涉也。朱、安世也。史記曰、誅獯獯。獯與趨同、欺譙切。說文曰、悍、勇也、戶旦切。毛詩曰、鬪如虓虎。呼交切。爾雅曰、猖獗、似狸。猖、勅珠切。

【原涉也】唐寫本無也。字。

【趨】唐寫本作趨、是也。說見前。

【呼交切】唐寫本呼上有虓字。高氏義疏云、「呼交」上尤本脫虓字。據唐寫補。袁本朝鮮本明州本四部本無此音注、正文虓字下有音注呼交二字、崇本同。【猖】袁本朝鮮本明州本四部本作猖。但袁本下猖字作猖。

【正文】睡毗薑芥、屍僵路隅。睡毗薑芥、屍僵路隅

【毗】崇本作皆、四部本誤作毗。

【芥】唐寫本作芥。饒氏斟證云、「芥」乃「芥」之譌。

(注)

臣善曰、漢書曰、源涉、字巨先、自陽翟徙茂陵。涉好繁、睡毗於塵中、獨死者甚多。廣雅曰、睡、裂也。說

善曰、漢書曰、原涉、字巨先、自陽翟徙茂陵。涉外溫仁、內隱忍好殺、睡毗於塵中、獨死者甚衆。廣雅曰、

僵、仆也。

文曰、皆、目匡也。淮南子曰、瞋目裂眦。睡、五懈反。皆、在賣反。張揖子虛賦曰、帶介、刺鏃也。薑與帶同、並丑介反。

【僵仆也】唐寫本無此三字。

【原】唐寫本作源。『漢書』游俠傳原涉、無原作源者。唐寫本誤耳。

【外溫仁內隱忍好殺】唐寫本作好繁二字。『漢書』游俠傳作外溫仁謙遜、而內隱好殺、無忍字。『干祿字書』云、「繁」殺、上俗下正。

【觸】唐寫本作獨。『漢書』游俠傳亦作獨。王念孫『讀書雜誌』云、「獨」當爲觸、草書之誤也。高氏義疏云、「唐寫亦作獨、諦審似是觸字。作獨者、乃觸之誤。作觸者、疑亦觸與觸字草書相似、遂作觸耳。」伏氏校注152云、「高說是、唐寫本正作觸。」饒氏斟證云、「高步瀛謂永隆本作觸、案此字大旁甚分明、以爲從手者、乃傳會之談。」

【衆】唐寫本作多、與『漢書』游俠傳合、是也。板本誤耳。

【匡】朝鮮本作睡。

【裂眦】皆字、朝鮮本作毗。

【解】唐寫本袁本朝鮮本明州本四部本作懈。

【子虛賦注】唐寫本脫「注」字。

【並丑介切】袁本朝鮮本明州本四部本無此音注、正文「藪」字下有音注「丑介」二字、崇本作「敕介」。疑六臣諸本從李善注改五臣音注。

14 b

（正文）丞相欲以贖子罪、陽石汙而公孫誅。

【汙】九条本崇本袁本朝鮮本明州本四部本作「汚」。

（注）

臣善曰、漢書曰、公孫賀爲丞相。子敬聲爲大僕、擅用北軍錢千九百萬、下獄。是時詔捕陽陵朱安世、賀請逐捕以贖敬聲罪。後果得安世。安世者、京師大俠也。遂從獄中上書、告敬聲與陽石公主私通。遂父子死獄中。

善曰、漢書曰、公孫賀爲丞相。子敬聲爲太僕、擅用北軍錢千九百萬、下獄。是時詔捕陽陵朱安世、賀請逐捕以贖敬聲罪。後果得安世。安世遂從獄中上書曰、敬聲與陽石公主私通。遂父子俱死獄中也。陽石、北海縣名也。

【太僕】「太」字、唐寫本作「大」。

【安世遂】唐寫本「世」下有「者京師大俠也」六字、與『漢書』公孫賀傳合。各本脫耳。

【上書曰】「曰」字、唐寫本作「告」、與『漢書』公孫賀傳合。各本誤耳。

【俱死獄中也】唐寫本無「俱」也「字、與『漢書』公孫賀

傳合。各本衍耳。

【陽石北海縣名也】唐寫本無此七字。高氏義疏云、「案此七字必非李注、蓋後人誤以統注屬入者。陽石並不屬北海。」但崇本張統注無此注、恐以別人注混入。

（正文）若其五縣遊麗、辯論之士、街談巷議、彈射臧否、

剖析豪釐、擊肌分理。若其五縣遊麗、辯論之士、街談巷議、彈射臧否、剖析毫釐、擊肌分理。

【辯】朝鮮本作「辨」。

【割】上野本作「割」。『干祿字書』「害」爲「害」之俗字、然則「割」卽「割」字。高氏義疏云、「古鈔「割」作「割」。」

饒氏斟證云、「上野本作「割」。」

【毫釐】唐寫本作「豪釐」、上野本「豪釐」。釐字、九条本崇本袁本朝鮮本明州本四部本亦作「釐」。許氏筆記云、「毫釐」、何改「豪釐」、見漢書。嘉德案「豪毛」「豪釐」字本作「豪」、後人乃用「毫」。釐作「釐」、假借。」高氏義疏云、「步瀛案、唐寫李注正作「豪釐」。《漢書·律曆志》曰、「不失豪釐」。顏注引孟康正同。」釐乃「釐」之異體字。『玉篇』『廣韻』作「釐」、同。『龍龜手鑑』云、「釐」、釐同。」

（注）

臣善曰、五縣、謂長陵、安陵、陽陵、茂陵、平陵。毛陵、安陵、陽陵、武陵、平陵、茂陵也、已見西都賦。毛陵、長毛也。漢書音義曰、詩曰、未知臧否。聲類曰、詩曰、未知臧否。聲類曰、



十豪爲鬣、力之反。鄭玄周札注曰、擘、破裂也、補革反。說文曰、肥、穴也。

毫、長毛也。漢書音義曰、十毫爲鬣、力之切。鄭玄周禮注曰、擘、破裂也、補革切。說文曰、肌、肉也。

【謂五陵也】唐寫本無五陵也三字。板本下亦有五陵也三字、疑衍。

【武陵】武字、唐寫本朝鮮本作茂。胡氏考異云、一何校武改茂、袁本亦作武、茶陵本所復出作茂、茂字是也。唐寫本朝鮮本不誤。

【五陵也已見西都賦】唐寫本無此八字。四部本長陵安陵陽陵武陵平陵五陵也已見西都賦作漢書曰高帝葬長陵惠帝葬安陵景帝葬陽陵武帝葬茂陵昭帝葬平陵五陵也、此從卷一「西都賦」北眺五陵注重出、四部本之體例耳。九条本紙背作善曰五縣謂五陵也漢書曰高帝葬長陵惠帝葬安陵景帝葬陽陵武帝葬茂陵昭帝葬平陵、與四部本略同。

【毫長毛也】毫字、唐寫本作豪。

【十毫爲鬣】毫字、唐寫本作豪。鬣字、唐寫本作鬣、袁本朝鮮本明州本作鬣。『干祿字書』鬣爲鬣之俗字、然則鬣即鬣、鬣同。

【力之切】袁本朝鮮本明州本四部本無此三字、正文鬣字下有音注力之二字、崇本亦同。

【肌肉也】肌字、唐寫本作肥、疑誤寫。肉字、唐

寫本作穴。『干祿字書』云、「穴肉、上俗下正。」

(正文) 所好生毛羽、所惡成創瘡。

【創】九条本崇本袁本朝鮮本明州本四部本作瘡、但袁本朝鮮本明州本薛注作創。許氏筆記云、「瘡瘡、瘡何改創。案說文」刃、傷也。或作創。徐曰、今俗別作瘡、非是。」伏氏校注160云、「創、瘡同聲假借。《玉篇》瘡、瘡瘡也。古作創。」

(注) 毛羽、言飛揚。創瘡謂瘡痕也。胡軌反。

【創】四部本作瘡。瘡唐寫本作瘡。伏氏校注161云、「按、同音假借。」

【蒼頡】胡氏考異云、「何校頡下添篇字、陳同、是也。各本皆脫。」

【毆】唐寫本袁本朝鮮本明州本四部本作毆。『說文』毆字段注云、「按此字即今經典之毆字、《廣韻》曰、俗作毆、是也。」

(正文) 郊甸之內、鄉邑股賑、

(注) 五十里爲近郊、百里爲甸師。股賑、謂富饒也。

五十里爲之郊、百里爲甸師。股賑、謂富饒也。

五十里爲之郊、百里爲甸師。股賑、謂富饒也。

五十里爲之郊、百里爲甸師。股賑、謂富饒也。

臣善曰、尚書曰、五百甸服。爾雅曰、賑、富也。之忍反。

善曰、尚書曰、五百甸服。爾雅曰、賑、富也。之忍切。

【之郊】之字、唐寫本袁本朝鮮本明州本四部本作「近」。胡氏考異云、「袁本茶陵本之」作「近」、是也。」

【五百里甸服】唐寫本無「里」字。案「尚書」禹貢亦有「里」字、唐寫本脫耳。

15 a

（正文）五都貨殖、既遷既引、（五都貨殖、既遷既引）

（注）

遷、易也。引、致也。

遷、易也。引、致也。

臣善曰、王莽於五都立均官、更名雒陽、邯鄲、淄、宛、成都市長皆為五均司市師也。

善曰、五都已見西都賦。遷謂徙之於彼、引謂納之於此。

【五都已見西都賦】唐寫本作「王莽於五都立均官更名雒陽邯鄲淄宛成都市長皆為五均司市師也」。案「漢書」食貨志下云、「遂於長安及五都立五均官、更名長安東西市令及洛陽、邯鄲、臨淄、宛、成都市長皆為五均司市稱師。東市稱京、西市稱畿、洛陽稱中、餘四都各用東西南北為稱、皆置交易丞五人、錢府丞一人。」此李善節引「漢書」文耳。但「淄」上脫「臨」字。伏氏校注以為「王莽」上脫「漢書」三字。王念孫「讀書雜誌」云、「第一「稱」字、涉下四「稱」字而衍。司市師、即上文所云市令、市長。」唐

寫本無「稱」字、可以為王說證左。五都已見西都賦「七字、四部本九条本紙背作「漢書曰王莽於五都立均官更名雒陽邯鄲臨淄宛城郭市長安皆為五均」、此從卷一「西都賦」五都之貨殖」注重引耳。卷一「西都賦」注尤本胡刻本「成」誤作「城」、又各本「長」下衍「安」字。此四部本亦「成」都誤作「城郭」、衍「安」字。

【遷謂徙之於彼引謂納之於此】唐寫本無此十二字。伏氏校注167云、「薛注「遷、易也。引、致也」、已將「遷引」解釋清楚、今本「遷」下十二字疑後儒竄入者。」

（正文）商旅聯榻、隱隱展展、（商旅聯榻、隱隱展展）

（注）

言賈人多、車柅相連屬、隱展展、重車聲也。言賈人多、車柅相連屬、隱展展、重車聲也。丁謹切。

臣善曰、說文曰、柅、大車。善曰、說文曰、柅、大車柅。居賁反。

【隱隱展展】唐寫本脫「隱」一字。

【重車聲也】北宋本殘卷袁本朝鮮本明州本四部本無「車」字。胡氏考異云、「袁本茶陵本無「車」字、是也。」黃氏北宋本殘卷校證云、「此乃形容車聲之大、疑當有「車」字為是。」伏氏校注168云、「按、上文既言車柅相連、則此言重車聲為隨文釋義、「車」字不是衍文。」

【丁謹切】唐寫本袁本朝鮮本明州本四部本無此三字。崇

本袁本朝鮮本明州本四部本正文「展」字下有音注「丁謹」二字、此乃五臣音注混入耳。

【扼也】唐寫本無「也」字。伏氏校注169云、「按、今本《說文》有「也」字、唐寫本脫。」

（正文）冠帶交錯、方輳接軾。〈冠帶交錯、方輳接軾〉

【軾】唐寫本上野本「軾」、唐寫本注同。『集韻』云、「軾、俗作「軾」。」

【輳】崇本作「圓」。〔注〕

冠帶猶摺紳、謂吏人也。

臣善曰、楊雄蜀都賦曰、方輳齊轂、隱軾幽輻。枚乘兔園賦曰、車馬接軾相屬、方輳曰、車馬接軾相屬、方輳錯轂。說文曰、軾、車後橫木也。

〔冠帶猶摺紳謂吏人也〕唐寫本無此薛注。朝鮮本「摺」作「縉」。

〔隱軾軾軾〕唐寫本作「隱軾幽輻」。高氏義疏云、「唐寫本李注引、與《古文苑》所載《蜀都賦》合。但「幽輻」二字與下「埃敦」爲句、則「隱軾」似重文是。」

（正文）封畿千里、統以京尹。〈封畿千里、統以京尹〉

〔注〕臣善曰、漢書曰、內史、周一善曰、毛詩曰、封畿千里、

官、武帝更名京兆尹。張晏曰、地絕高曰京、十億曰兆。尹、正也。

惟民所止。漢書曰、內史、周官、武帝更名京兆尹。張晏曰、地絕高曰京、十億曰兆。尹、正也。

〔毛詩曰封畿千里惟民所止〕唐寫本無此十一字。今「毛詩」商頌玄鳥「封」作「邦」、〈惟「作」維〉。

〔地絕高曰京〕北宋本殘卷袁本朝鮮本明州本四部本「高」下有「平」字。黃氏北宋本殘卷校證云、「漢書百官公卿表注曰、〈張晏曰、地絕高曰京。〉則無「平」字是也。」

（正文）郡國宮館、百卅五。〈郡國宮館、百四十五〉

〔四十〕唐寫本上野本作「卅」。饒氏斟證云、「容齋隨筆五云、〈今人書二十爲廿、三十爲卅、四十爲卌、皆說文本字也、卌音先立反、今直以爲四十字。案秦始皇刻石頌德之辭、皆四字一句、泰山辭曰、皇帝臨位、二十有六年、史記所載、每稱年者輒五字一句、嘗得石本、乃書爲廿有六年、而太史公誤易之、其實四字句也。〉永隆本之「卌」、乃所謂「直以爲四十」者、如依泰山石刻讀一音、則不合本賦句法。」上野本傍記云、「有在一本。」疑有作「百卅有五」者。

〔注〕

離宮別館、在諸郡國者也。臣善曰、三輔故事曰、秦時殿觀百卅五。離宮別館、在諸郡國者。善曰、三輔故事曰、秦時殿觀百四十五所。

【國者】唐寫本〈者〉下有〈也〉字。

【百四十五所】唐寫本作〈百卅五〉、無〈所〉字。

（正文）右極整屋、并卷鄴鄂、〈右極整屋、并卷鄴鄂〉

【整】上野本袁本朝鮮本作〈整〉、朝鮮本注文亦作〈整〉。

【正字通】云、「〈整〉、〈整〉之譌。」

【屋】唐鈔本作〈屋〉。〈屋〉、乃〈屋〉之譌。

（注）

整屋、山名。因名縣。

臣善曰、漢書、右扶風有整

善曰、漢書曰、右扶風有整

屋縣。整、張流反。屋、張

屋縣。整、張流切。屋、張

栗反。

栗切。

【整屋山名因名縣】唐寫本無此七字。高氏義疏云、「唐寫無薛注、是。整屋、非山名。」

【漢書曰】唐寫本無〈曰〉字、是也。案李注體例、引『漢書』地理志釋地名、不添〈曰〉字。高氏義疏云、「今依唐寫刪。」饒氏斟證云、「各本誤衍〈曰〉字。」

【整屋縣】〈屋〉字、唐寫本作〈屋〉、下同。『說文』幸部〈整〉字段注云、「〈屋〉、俗作〈屋〉、非。」高氏義疏云、「〈屋〉、从广、至聲、不从厂、俗並誤。」

【整張流切】袁本朝鮮本脫〈整〉字。

（正文）左暨河華、遂至虢土。

（注）

暨、言及也。

臣善曰、漢書、右扶風有虢

縣也。

暨、言及也。華陰縣、故屬

京兆。

善曰、漢書、右扶風有虢縣。

【華陰縣故屬京兆】唐寫本無此七字。四部本〈華〉誤作〈

蓋〉。

【虢縣】唐寫本〈縣〉下有〈也〉字。

（續）